

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オオサカイカヤッカダイガク 学校法人 大阪医科薬科大学						※同一法人2大学（大阪医科大学、大阪薬科大学）の統合を目的とした大学院設置認可申請	
フリガナ大学の名称	オオサカイカダイガクダイガクイン 大阪医科大学大学院 (Graduate School of Medicine, Osaka Medical College)						※設置認可後に大学名称変更（大阪医科薬科大学）予定	
大学本部の位置	大阪府高槻市大学町2番7号							
大学の目的	1 医学、薬学及び看護学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の発展に寄与する。 2 設置する研究科において研究者、教育者或いは医療人として自立して活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。							
新設学部等の目的	薬学部における教育研究を基に、高い専門性を持つ研究及び知識・技能の教授を通じて、薬学分野の先端科学ならびに医療を進展させ継承することのできる人材を養成し、広く社会に貢献することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	薬学研究科 [Graduate School of Pharmaceutical sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	大阪府高槻市奈佐原4-20-1
	薬学専攻博士課程 [Division of Pharmacy Research]	4	3	-	12	博士（薬学） [Doctor of Philosophy in Pharmacy]	令和3年4月 第1・2・3・4年次	
	薬科学専攻博士前期課程 [Division of Pharmaceutical science Research]	2	5	-	10	修士（薬科学） [Master of Pharmaceutical Sciences]	令和3年4月 第1・2年次	
	薬科学専攻博士後期課程 [Division of Pharmaceutical science Research]	3	2	-	6	博士（薬科学） [Doctor of Philosophy in Pharmaceutical Sciences]	令和3年4月 第1・2・3年次	
計		10	-	28				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	令和3年4月名称変更予定 大阪医科大学→大阪医科薬科大学 大阪薬科大学大学院（廃止） 薬学研究科 薬学専攻 博士課程 4年制課程（△ 3） 薬科学専攻 博士前期課程 2年制課程（△ 5） 薬科学専攻 博士後期課程 3年制課程（△ 2） ※令和3年4月学生募集停止（全学生転学により令和3年4月大学院廃止の認可申請） 大阪薬科大学（廃止） 薬学部 薬学科（△294） 薬科学科（△ 0）※平成30年4月学生募集停止中 ※令和3年4月学生募集停止（全学生転学により令和3年4月大学廃止の認可申請） 大阪医科大学 薬学部（令和2年3月認可申請） 薬学科（294） 薬科学科（-）（募集停止）						※同一法人2大学（大阪医科大学、大阪薬科大学）の統合を目的として、大阪医科大学へ薬学部／大学院薬学研究科を設置し、設置認可後、大学名称の変更手続きを行う。 ※大阪薬科大学の組織並びに校地並びに施設及び設備の同一性を保持する他、教育課程、教員組織、学生支援体制等の一切を承継する。 ※設置後、大阪薬科大学／大学院の廃止認可申請を行う。	

基 本 計 画										
	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
教育課程	薬学研究科 薬学専攻 博士課程	20科目	9科目	1科目	30科目	41単位				
	同上 がん専門薬剤師 養成コース	22科目	15科目	2科目	39科目	41単位				
	薬学研究科 薬科学専攻 博士前期課程	10科目	2科目	1科目	13科目	31単位				
	薬学研究科 薬科学専攻 博士後期課程	10科目	6科目	1科目	17科目	28単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	薬学研究科 薬学専攻 博士課程	人	人	人	人	人	人	人	人
			16	15	4	10	45	0	18	
			(16)	(15)	(4)	(10)	(45)	(0)	(18)	
	既設分	薬学研究科 薬科学専攻 博士前期課程	19	16	8	15	58	0	0	
			(19)	(16)	(8)	(15)	(58)	(0)	(0)	
	既設分	薬学研究科 薬科学専攻 博士後期課程	7	3	4	6	20	0	37	
			(7)	(3)	(4)	(6)	(20)	(0)	(37)	
	計			23	18	9	16	66	0	55
				(23)	(18)	(9)	(16)	(66)	(0)	(55)
	既設分	医学研究科 医学専攻 博士課程	44	42	57	148	291	0	0	
(44)			(42)	(57)	(148)	(291)	(0)	(0)		
26			21	34	32	113	0	6		
(26)			(21)	(34)	(32)	(113)	(0)	(6)		
既設分	看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	13	10	2	0	25	0	0		
		(13)	(10)	(2)	(0)	(25)	(0)	(0)		
既設分	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	12	7	0	0	19	0	0		
		(12)	(7)	(0)	(0)	(19)	(0)	(0)		
計			57	52	59	148	316	0	6	
			(57)	(52)	(59)	(148)	(316)	(0)	(6)	
合計			80	70	68	164	382	0	61	
			(80)	(70)	(68)	(164)	(382)	(0)	(61)	
教員以外の職員の概要	職 種			専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員			人		人		人		
				292		38		330		
				(292)		(38)		(330)		
	技 術 職 員			1,285		0		1,285		
				(1,285)		(0)		(1,285)		
図 書 館 専 門 職 員			5		2		7			
			(5)		(2)		(7)			
そ の 他 の 職 員			39		2		41			
			(39)		(2)		(41)			
計			1,621		42		1,663			
			(1,621)		(42)		(1,663)			
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地		114,348.65㎡	0㎡	0㎡		114,348.65㎡			
	運 動 場 用 地		37,981.91㎡	0㎡	0㎡		37,981.91㎡			
	小 計		152,330.56㎡	0㎡	0㎡		152,330.56㎡			
	そ の 他		8,641.61㎡	0㎡	0㎡		8,641.61㎡			
	合 計		160,972.17㎡	0㎡	0㎡		160,972.17㎡			

※「新設分」は大阪薬科大学の教員組織を承継する。

大学全体
※大阪医科大学と大阪薬科大学の合計

大学全体
※大阪医科大学と大阪薬科大学の合計

基 本 計 画											
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
		75,795.15㎡ (75,795.15㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	75,795.15㎡ (75,795.15㎡)	※大阪医科大学と大阪薬科 大学の合計					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	42室	77室	47室	5室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)	※大阪医科大学と大阪薬科 大学の合計					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数		大学全体				
		薬学研究科			82 室		複数人使用の共同研究室含 む				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定不能な ため、薬学研究科と薬学部 の全体の数			
	薬学研究科	95,477[39,214] (92,477[38,914])	588[369] (618[393])	3,077[3,071] (3,655[2,225])	2,029 (1,924)	2,763 (2,763)	8,700 (8,700)				
	計	95,477[39,214] (92,477[38,914])	588[369] (618[393])	3,077[3,071] (3,655[2,225])	2,029 (1,924)	2,763 (2,763)	8,700 (8,700)				
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		4,553.97㎡		551		345,722			※大阪医科大学と大阪薬科 大学の合計		
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体	
		5,175.4㎡		テニスコート8面		弓道場2面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度(H32)	第1年次(H33)	第2年次(H34)	第3年次(H35)	第4年次(H36)	第5年次(H37)	第6年次(H38)			
	教員1人当り研究費等		1,660千円	1,660千円	1,660千円	1,660千円	-千円	-千円	薬学研究科での算出不能な ため、薬学部との合計		
	共同研究費等		40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	-千円	-千円			
	図 書 購 入 費	87,650千円	87,650千円	87,650千円	87,650千円	87,650千円	-千円	-千円	図書購入費には電子ジャー ナル・データベース整備費 (運用コストを含む。)を 含む。		
	設 備 購 入 費	107,500千円	100,000千円	90,000千円	64,000千円	86,300千円	-千円	-千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	薬科学専攻博士前期課程： 修業年限2年			
	600千円	500千円	500千円	500千円	-千円	-千円	薬科学専攻博士後期課程： 修業年限3年				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、補助金、資産運用収入等								

基 本 計 画										
既設大学等の状況	大学の名称	大阪医科大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	人	人		倍			
	医学部医学科	6	112	-	672	学士(医学)	0.99	昭和28年度	大阪府高槻市大学町2番7号	
	医学研究科医科学専攻修士課程	2	4	-	4	修士(医科学)	-	令和2年度	同上	※令和2年度設置(入学定員4人)(医科学専攻修士課程)
	医学研究科医学専攻博士課程	4	50	-	212	博士(医科学)	0.77	昭和34年度	同上	※令和2年度入学定員減(△4人)(医学専攻博士課程)
	看護学部看護学科	4	85	-	340	学士(看護学)	1.03	平成22年度	大阪府高槻市八丁西町7番6号	
	看護学研究科看護学専攻博士前期課程	2	8	-	16	修士(看護学)	0.68	平成26年度	同上	
	看護学研究科看護学専攻博士後期課程	3	3	-	9	博士(看護学)	2.00	平成26年度	同上	
	大学の名称	大阪薬科大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人		人		倍			
薬学部薬学科	6	294	-	1732	学士(薬学)	1.03	平成18年度	大阪府高槻市奈佐原4-20-1		
薬学部薬科学科	4	-	-	-	学士(薬科学)	-	平成18年度	同上	※平成30年度より学生募集停止(薬学部薬科学科)	
薬学研究科薬学専攻博士課程	4	3	-	12	博士(薬学)	0.58	平成24年度	同上		
薬学研究科薬科学専攻博士前期課程	2	5	-	10	修士(薬科学)	0.05	平成22年度	同上		
薬学研究科薬科学専攻博士後期課程	3	2	-	9	博士(薬科学)	0.33	平成24年度	同上	※平成31年度入学定員減(△3人)(薬科学専攻博士後期課程)	
附属施設の概要	<p>名称：大阪医科大学附属病院 目的：社会のニーズに応える安全で質の高い医療を提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成する。 所在地：大阪府高槻市大学町2番7号 設置年月：昭和5年5月15日 規模等：敷地 58,798.34㎡、建物 88,546.44㎡</p> <p>名称：薬用植物園 目的：薬用植物の教育研究及び市民の見学、研究者の交流 所在地：大阪府高槻市奈佐原4丁目20-1 設置年月：平成8年4月 規模等：土地4,995㎡</p>									

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(大阪医科大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
講義	医療薬学総論	1前	1			○			10						兼2 オムニバス オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）
	薬学倫理教育特論	1前	1			○			1	2					
	がん医療薬学特論* (領域薬学特論Ⅰ)	1・2・3・4後	1			○			3	2	1				
	予防薬学特論Ⅰ	1前		1		○			3	2				兼1 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	病態薬理学特論Ⅰ	1後		1		○			2	1					
	病態解析学特論Ⅰ	1後		1		○			4	3					
	医薬品動態制御学特論Ⅰ	1後		1		○			2	2					
	医療評価薬学特論Ⅰ	1前		1		○			2						
	薬学臨床特論Ⅰ	1前		1		○			3	2					
	(領域薬学特論Ⅱ)														
	予防薬学特論Ⅱ	2後		1		○			3	2				兼1 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	病態薬理学特論Ⅱ	2前		1		○			2	1					
	病態解析学特論Ⅱ	2後		1		○			4	3					
	医薬品動態制御学特論Ⅱ	2前		1		○			2	2					
	医療評価薬学特論Ⅱ	2後		1		○			2						
	薬学臨床特論Ⅱ	2後		1		○			3	2					
	(領域薬学特論Ⅲ)														
	分子構造・機能解析学特論Ⅰ	1前		1		○				2				兼3 オムニバス 兼3 オムニバス 兼3 オムニバス 兼3 オムニバス 兼3 オムニバス	
	分子構造・機能解析学特論Ⅱ	2前		1		○				2					
	分子構造・機能解析学特論Ⅲ	3前		1		○				2					
創薬化学特論Ⅰ	1前		1		○			3	3						
創薬化学特論Ⅱ	2前		1		○			3	3						
創薬化学特論Ⅲ	3前		1		○			3	3						
e-Learningによるがん医療関連講義*	1・2・3・4前・後		1		○			1					メディア		
小計（22科目）	—		3	19				—	16	15	1			兼10 —	
演習	外国文献講読	1～4	8				○		15	13	4	10		兼15 共同 共同 共同 共同 共同	
	外国文献講読*	1～4	4				○		3	2	1				
	臨床連携治療演習	1・2後	1				○		3	2	1				
	がん専門薬剤師基盤育成演習Ⅰ*	1通	2				○		3	2	1				
	がん専門薬剤師基盤育成演習Ⅱ*	2通	2				○		3	2	1				
	がん専門薬剤師基盤育成演習Ⅲ*	1・2・3・4前・後	1				○		3	2	1				
	がん臨床研修あるいはがん課題研究の成果発表ならびにその関連分野の総説的講演と質疑討論*	1～4	2				○		3	2	1				
	がん専門薬剤師基盤育成演習Ⅳ*	1・2・3・4前・後	1				○		3	2	1			共同	
	(評価薬学演習)														
	薬効評価演習	1・2・3・4前		1			○		2	1		3		兼3 オムニバス・共同 オムニバス・共同 オムニバス・共同 オムニバス・共同 オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同 ※講義、オムニバス・共同	
	健康環境予防評価演習	1・2・3・4後		1			○		3	2	1	1			
	処方解析演習	1・2・3・4前		1			○		3	2	1				
	病態評価演習	1・2・3・4前		1			○		3	3	2	2			
医療評価演習	1・2・3・4前		1			○		3	2		2				
治験・臨床試験演習	1・2・3・4後		1			○		3	2	1					
創薬化学演習	1・2・3・4前		1			○		2	3		2				
小計（15科目）	—		20	8				—	15	13	4	10		兼15 —	
実習	特別研究	1～4	24					○	15	13	4	10		兼15 兼15 兼15	
	薬学臨床研修・特別研究*	1～4	24					○	3	2	1				
	小計（2科目）	—	48					—	15	13	4	10			
合計（39科目）		—	71	27				—	16	15	4	10		兼18	
*：「がん専門薬剤師養成コース」のみ履修可能															
学位又は称号	博士（薬学）			学位又は学科の分野				薬学関係							

教 育 課 程 等 の 概 要

(大阪医科大学大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程)

卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法	授 業 期 間 等	
<p><一般コース> 本大学院薬学研究科に4年以上在学し、41単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 履修方法は、講義2科目2単位を必修、3科目3単位を選択必修、演習は外国文献購読を含め9単位を必修、各学生の所属領域の科目を含め3科目3単位を選択必修、特別研究は必修(24単位)とする。なお、講義科目のうち、領域薬学特論Ⅲは1科目1単位まで修了要件に含めることができる。</p> <p><がん専門薬剤師養成コース> 本大学院薬学研究科に4年以上在学し、41単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 履修方法は、講義3科目3単位を必修、領域薬学特論Ⅰに属する科目・領域薬学特論Ⅱに属する科目・領域薬学特論Ⅲに属する科目・e-Learningによるがん医療関連講義及び単位互換科目から2科目2単位を選択必修(ただし、領域薬学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲからの単位取得はそれぞれ1科目1単位を上限とする)、演習は外国文献購読・がん専門薬剤師基盤育成演習Ⅰ～Ⅲ・がん臨床研修あるいはがん課題研究の成果発表ならびにその関連分野の総説的講演と質疑討論の11単位を必修、評価薬学演習に属する科目及びがん専門薬剤師基盤育成演習Ⅳから1科目1単位を選択必修、薬学臨床研修・特別研究は必修(24単位)とする。</p>	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(大阪医科大学 薬学部薬学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	文学の世界	1・2前		1		○									兼1
	歴史と社会	1・2前		1		○									兼1
	地球環境論	1・2前		1		○									兼1
	政治と社会	1・2前		1		○									兼1
	基礎心理学	1・2前		1		○									兼1
	法と社会	1・2前		1		○									兼1
	経済の世界	1・2前		1		○									兼1
	数理論理学	1・2前		1		○				1					兼1
	社会分析の基礎	1・2後		1		○									兼1
	人間と宗教	1・2後		1		○									兼1
	文化人類学	1・2後		1		○									兼1
	倫理と社会	1・2後		1		○				1					兼1
	コーチング論	1・2後		1		○					1				兼1
	スポーツ・運動2	1・2後		1					○		1				兼1
	情報科学	1・2後		1			○								兼4
	情報科学演習	1前	1					○		1					兼1
	アカデミックスキル	1前	1					○		2	3	1	1		兼1
	身体運動科学	1前	1				○				1				兼3
	スポーツ・運動1	1前	1						○		1				共同
	物理学1	1前	1				○				1				兼1
	物理学2	1後	1				○				1				兼1
	化学	1前	2				○			1	3	3			兼1 ※演習
	生物学	1前	1				○			1					兼1
	数学1	1前	2				○				2				兼1 ※演習
	数学2	1後	1				○				2				兼1 ※演習
	数理統計学	2後	2				○				1				兼1 ※演習
	英語リスニング1	1前	1				○			1		1			兼2
	英語リスニング2	1後	1				○			1		1			兼2
	英語リーディング1	1前	1				○								兼4
	英語リーディング2	1後	1				○								兼4
	英語スピーキング1	2前	1				○			1					兼3
	英語スピーキング2	2後	1				○			1					兼3
	英語ライティング1	2前	1				○					1			兼3
	英語ライティング2	2後	1				○					1			兼3
	ドイツ語1	1前		1			○			1					兼1
	ドイツ語2	1後		1			○			1					兼1
	中国語1	1前		1			○								兼1
	中国語2	1後		1			○								兼1
	ハングル1	1前		1			○								兼1
	ハングル2	1後		1			○								兼1
	異文化言語演習1	3前	1						○		1	1			兼7
	異文化言語演習2	3後	1						○		1	1			兼7
	医療心理学	2後	1				○								兼1
	コミュニケーション	4前	1				○			1					兼1 ※演習
	キャリアデザイン概論	4前	1				○			1					兼1 共同 ※演習
小計 (45科目)		—	27	21				—	8	9	5	1		兼38	

教 育 課 程 等 の 概 要

(大阪医科大学 薬学部薬学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎薬学科目	薬学入門	1 前	1			○			5	1						オムニバス
	医工薬連環科学	2 前		1		○			1						兼2	オムニバス メディア(一部)
	物理化学 1	1 後	1			○									兼1	
	物理化学 2	2 前	1			○									兼1	
	物理化学 3	2 後	1			○				1					兼1	オムニバス
	放射化学	3 前	1			○					1					
	分析化学 1	1 後	1			○			1							
	分析化学 2	2 前	2			○				1						
	生物無機化学	2 前	1			○			1							
	基礎有機化学	1 前	1			○			2	2			5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機化学 1	1 後	2			○			2	2			5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機化学 2	2 前	2			○			2	2			5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機化学 3	2 後	1			○			2	2			5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機化学 4	3 前	2			○			2	2			5		兼1	共同(一部) ※演習
	有機スペクトル学演習	2 後	1			○			2	2			5		兼1	共同(一部) ※演習
	基礎細胞生物学	1 後	2			○				1						
	生化学 1	1 後	2			○									兼1	
	生化学 2	2 前	2			○									兼1	
	分子生物学	2 後	2			○									兼1	
	微生物学	2 前	2			○			1	1						オムニバス
	免疫学	3 前	2			○					1					
	機能形態学 1	1 後	2			○			2							オムニバス
	機能形態学 2	2 前	2			○			1							
小計 (23科目)		—	34	1				—	9	7	2	5		兼8		
応用薬学科目	薬学英语	4 前	1					○	1						兼4	
	応用分析学	3 前	1			○				1						※演習
	応用放射化学	3 後		1		○			1						兼1	
	生物物理化学	4 前		1		○										
	薬用植物学	1 前	1			○			1							
	薬用天然物化学	1 後	2			○			1							
	生薬学	2 前	1			○				1						
	医薬品化学 1	3 後	2			○			1							
	医薬品化学 2	4 前	1			○			1							
	精密有機合成化学	3 後		1		○									兼1	
	衛生薬学 1	2 後	2			○			1	2						オムニバス
	衛生薬学 2	3 前	2			○				2						オムニバス
	衛生薬学 3	3 後	2			○			1						兼1	
	分子細胞生物学	3 前	2			○										
	病原微生物学	3 後	1			○			1							
	先端分子医科学	4 前		1		○			2	1	1				兼1	オムニバス
	基礎漢方薬学	2 後	2			○				1						
	物理薬剤学	3 前	2			○			1	1						オムニバス
医療統計学	4 後	1			○				1						※演習	
小計 (19科目)		—	23	4				—	8	7	1			兼7		

教 育 課 程 等 の 概 要

(大阪医科大学 薬学部薬学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
実習科目	分析化学実習	2前	1					○	2	2		1		共同
	物理化学実習	2後	1					○		1		1		兼3 共同
	基礎有機化学実習	1後	1					○	1	1		2		兼1 共同
	漢方・生薬学実習	2後	1					○	1	1		1		共同
	有機化学実習	3前	1					○	1	1		2		兼1 共同
	生物学実習	2前	1					○	1	1	1	2		共同
	生物科学実習	3前	1					○	1	1		2		兼3 共同
	衛生薬学・放射化学実習	3後	1					○		2	2	2		共同
	薬理学実習	3後	1					○	2		1	2	1	共同
	薬剤学実習	3後	1					○	3	2		2		共同
	病院実務実習	5通	10					○	8	2		1		共同
	薬局実務実習	5通	10					○	8	2		1		共同
	特別演習・実習	4～6前	14					○	19	16	4	21	2	兼7 共同
	小計(13科目)	—	44					—	24	17	6	21	2	兼7 共同
合計(139科目)		—	177	34			—	26	21	8	21	2	兼47 共同	
学位又は称号	学士(薬学)		学位又は学科の分野				薬学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
本学部に6年以上在学し、必修科目177単位、選択必修科目2単位(第二外国語科目)、選択科目8単位以上(基礎教育科目:4単位以上、基礎薬学科目・応用薬学科目・医療薬学科目:2年次～4年次配当科目からは3単位以上、6年次配当科目からは1単位)の計187単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:55単位/年間)								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(大阪医科大学大学院薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
講義	(「分子構造・機能解析学領域」科目)														
	構造生物学特論	1・2前		1			○								オムニバス
	生物学特論	1・2後		1			○			2	3	1			オムニバス
	(「創薬化学領域」科目)														
	生体機能分析学特論	1・2後		1			○			2	1	2			オムニバス
	薬化学特論	1・2前		1			○			3	1	1			オムニバス
	生薬・天然物化学特論	1・2後		1			○			1	2	1			オムニバス
	(「生命・環境科学領域」科目)														
	環境科学特論	1・2前		1			○			3	2	1			オムニバス
	薬理学特論	1・2後		1			○			2		1			オムニバス
薬物生体機能科学特論	1・2後		1			○			2	2				オムニバス	
(3領域統合科目)															
領域統合型先端科学特論	1後		1			○			9	1				オムニバス	
薬学倫理教育特論 I	1前		1			○			3	2				オムニバス・共同(一部)	
小計(10科目)		—	2	8			—		17	13	7			—	
演習	特別演習(PBL)	1・2前	2				○		16	14	7	15			
	特別演習(外国文献講読等)	1~2	4				○		16	13	5	15			
	小計(2科目)		6				—		16	14	7	15		—	
実習	特別研究	1~2	17					○	16	13	5	15			
	小計(1科目)		17				—		16	13	5	15		—	
合計(13科目)			—	25	8			—	19	16	8	15			
学位又は称号		修士(薬科学)		学位又は学科の分野				薬学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
本大学院薬学研究科に2年以上在学し、31単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、選択科目中、3領域それぞれから1単位以上を含め、計6単位以上を修得すること。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(大阪医科大学 薬学部薬科学科 (学生募集停止中))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	文学の世界 (教養)	1・2前		1		○								兼1
	歴史と社会 (教養)	1・2前		1		○								兼1
	地球環境論 (教養)	1・2前		1		○								兼1
	政治と社会 (教養)	1・2前		1		○								兼1
	基礎心理学 (教養)	1・2前		1		○								兼1
	法と社会 (教養)	1・2前		1		○								兼1
	経済の世界 (教養)	1・2前		1		○								兼1
	社会分析の基礎 (教養)	1・2前		1		○								兼1
	人間と宗教 (教養)	1・2後		1		○								兼1
	文化人類学 (教養)	1・2後		1		○								兼1
	倫理と社会 (教養)	1・2後		1		○								兼1
	コーチング論 (教養)	1・2後		1		○								兼1
	スポーツ・運動実習2 (教養)	1・2後		1				○						兼1
	数理論理学 (教養)	1・2後		1		○								兼1
	数学1	1前	1			○								兼2 ※演習
	数学2	1後	1			○								兼2 ※演習
	数理統計学	2前	1.5			○								兼1 ※演習
	物理学1	1前	1			○								兼1
	物理学2	1後	1			○								兼1
	英語リスニング1	1前	1			○								兼4
	英語リスニング2	1後	1			○								兼4
	英語リーディング1	1前	1			○								兼4
	英語リーディング2	1後	1			○								兼4
	英語スピーキング1	2前	1			○								兼4
	英語スピーキング2	2後	1			○								兼4
	英語ライティング1	2前	1			○								兼4
	英語ライティング2	2後	1			○								兼4
	ドイツ語1	1前		1		○								兼1
	ドイツ語2	1後		1		○								兼1
	フランス語1	1前		1		○								兼1
	フランス語2	1後		1		○								兼1
	中国語1	1前		1		○								兼1
	中国語2	1後		1		○								兼1
	ハングル1	1前		1		○								兼1
	ハングル2	1後		1		○								兼1
	異文化言語演習1	3前	1					○						兼9
	異文化言語演習2	3後	1					○						兼9
	心理社会	2後	1.5			○								兼1
	コミュニケーション	3前	1.5			○								兼1 ※演習
	医療と法	3後	1			○								兼1
	身体運動科学	1前	1			○								兼1
	スポーツ・運動実習1	1前	1					○						兼4 共同
	情報科学	1後		1		○								兼4
	情報科学演習	1前	1					○						兼1
	化学	1前	1			○					1			兼7
	化学演習	1前	1					○			1			兼7
	生物学	1前	1			○								兼1
	医工薬連環科学	2前		1.5		○								兼3 オムニバス メディア (一部)
	基礎有機化学	1前	1			○					1			兼9 共同 (一部) ※演習
小計 (49科目)		—	26.5	24.5				—		1		1		兼63 —

教 育 課 程 等 の 概 要

(大阪医科大学 薬学部薬科学科 (学生募集停止中))

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
基礎薬学 科目	薬学入門	1前	1			○									兼6 オムニバス
	基礎細胞生物学	1後	1.5			○									兼1 共同 (一部) ※演習
	有機化学 1	1後	1.5			○			1						兼9 共同 (一部) ※演習
	有機化学 2	2前	1.5			○			1						兼9 共同 (一部) ※演習
	有機化学 3	2後	1.5			○			1						兼9 共同 (一部) ※演習
	有機化学 4	3前	1.5			○			1						兼9 共同 (一部) ※演習
	有機スペクトル解析学	2後	1.5			○			1						兼9 共同 (一部) ※演習
	物理化学 1	1後	1.5			○			1						
	物理化学 2	2前	1.5			○			1						
	物理化学 3	2後	1.5			○				1					兼1 オムニバス
	分析化学 1	1後	1.5			○									兼1
	分析化学 2	2前	1.5			○									兼1
	放射化学	3前	1.5			○									兼1
	生化学 1	1後	1.5			○					1				
	生化学 2	2前	1.5			○			1						
	生化学 3	2後	1.5			○			1						
	微生物学	2前	1.5			○									兼2 オムニバス
	機能形態学 1	1後	1.5			○									兼2 オムニバス
	機能形態学 2	2前	1.5			○									兼1
	生物無機化学	2前	1.5			○									兼1
	免疫学	3後	1.5			○									兼1
小計 (21科目)	—	—	31			—			4	1	1				兼23 —
応用薬学 科目	医療統計学	3後	1			○									兼1 ※演習
	生薬学	1後	1.5			○									兼1
	基礎漢方薬学	2前	1.5			○									兼1
	薬用天然物化学 1	2後	1.5			○									兼1
	薬用天然物化学 2	3前	1.5			○									兼1
	衛生薬学 1	2後	1.5			○									兼2 オムニバス
	衛生薬学 2	3前	1.5			○									兼2 オムニバス
	衛生薬学 3	3前	1.5			○									兼1
	衛生薬学 4	3後	1.5			○									兼1
	病原微生物学	2後	1.5			○									兼1
	分子細胞生物学	3前	1.5			○			1						
	ゲノム医科学	3前	1.5			○									兼1
	バイオインフォマティクス	4前	1.5				○		1						
	応用分析学	3前	1.5			○									兼1 ※演習
	応用放射化学	3後			1	○									兼1
	生物物理化学	4前			1.5	○					1				
	分子設計学	4前	1.5			○					1				
	物理薬剤学	3前	1.5			○									兼2 オムニバス
	合成化学	3後	1.5			○			1						
	薬品合成化学	4前			1.5	○			1						
	医薬品化学	4前			1.5	○									兼1
小計 (21科目)	—	—	25	5.5		—			3	1					兼13 —

教 育 課 程 等 の 概 要

(大阪医科大学 薬学部薬科学科 (学生募集停止中))

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
医療薬学 科目	早期体験学習 1	1通	1					○			1			兼9	共同 <small>※現履修・実習</small>	
	早期体験学習 2	1後	0.5					○						兼10	共同 <small>※講義</small>	
	人体の構造と病態 1	1前	1.5				○							兼3	オムニバス	
	人体の構造と病態 2	1後	1.5				○							兼3	オムニバス	
	病態生化学	3後	1.5				○							兼1		
	薬理学 1	2後	1.5				○							兼1		
	薬理学 2	3前	1.5				○							兼1		
	薬理学 3	3後	1.5				○							兼1		
	薬理学 4	4前		1.5			○							兼1		
	製剤学	3後	1.5				○							兼2	オムニバス	
	生物薬剤学 1	2後	1.5				○							兼1		
	生物薬剤学 2	3前	1.5				○							兼1		
	薬物動態解析学	3後	1.5				○							兼1		
	薬物治療学 1	2前	1.5				○							兼3	オムニバス	
	薬物治療学 2	2後	1.5				○							兼3	オムニバス 共同(一部)	
	薬物治療学 3	3前	1.5				○							兼3	オムニバス	
薬物治療学 4	3後	1.5				○							兼3	オムニバス		
医薬品情報学	3後	0.5				○							兼2	共同 <small>※演習</small>		
小計 (18科目)	—	—	23	1.5				—			1			兼22	—	
実習	基礎薬学実習	1前	0.5					○			1		1		兼2	共同
	基礎有機化学実習	1後	1					○			1				兼4	共同
	有機化学実習	3前	1					○			1				兼4	共同
	漢方・生薬学実習	2後	0.5					○							兼3	共同
	分析化学実習	2前	1					○							兼5	共同
	物理・放射化学実習	2後	1					○			1				兼3	共同
	生物学実習	2前	1					○							兼5	共同
	生物科学実習	3前	1					○			2		1		兼4	共同
	衛生薬学実習	3後	1					○							兼5	共同
	薬理学実習	3後	1					○							兼6	共同
	製剤学実習	3後	1					○							兼7	共同
	特別演習・実習 (前期)	4前	5					○			4	1	2		兼51	
特別演習・実習 (後期)	4後	6					○			4	1	2		兼51		
小計 (13科目)	—	—	21					—			4	1	2		兼54	—
合計 (122科目)		—	126.5	31.5				—			4	1	2		兼106	—
学位又は称号	学士 (薬科学)		学位又は学科の分野			薬学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
本学に4年以上在学し、必修科目126.5単位、選択必修科目2単位 (第二外国語後科目)、選択科目8単位以上 (基礎教育科目: 5単位以上、基礎教育科目以外: 3単位以上) の計136.5単位を修得すること。						1 学年の学期区分			2 期							
						1 学期の授業期間			15週							
						1 時限の授業時間			90分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(大阪医科大学大学院薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義	(「分子構造・機能解析学領域」科目)													
	分子構造・機能解析学特論Ⅰ	1前		1			○			2	3			兼2 オムニバス
	分子構造・機能解析学特論Ⅱ	2前		1			○			2	3			兼2 オムニバス
	分子構造・機能解析学特論Ⅲ	3前		1			○			2	3			兼2 オムニバス
	(「創薬化学領域」科目)													
	創薬化学特論Ⅰ	1前		1			○			3				兼6 オムニバス
	創薬化学特論Ⅱ	2前		1			○			3				兼6 オムニバス
	創薬化学特論Ⅲ	3前		1			○			3				兼6 オムニバス
	(「生命・環境科学領域」科目)													
	生命・環境科学特論Ⅰ	1後		1			○			1				兼9 オムニバス
生命・環境科学特論Ⅱ	2後		1			○			1				兼9 オムニバス	
生命・環境科学特論Ⅲ	3後		1			○			1				兼9 オムニバス	
薬学倫理教育特論Ⅱ	1前		1						2				兼3 オムニバス・共同(一部)	
小計(10科目)	—		1	9			—		7	3			兼19	—
演習	特別演習Ⅰ	1前	1				○		5	3	4	6		兼34
	特別演習Ⅱ	2前	1				○		5	3	4	6		兼34
	特別演習Ⅲ	3前	1				○		5	3	4	6		兼34
	特別研究演習Ⅰ	1後	1				○		5	3	4	6		兼34
	特別研究演習Ⅱ	2後	1				○		5	3	4	6		兼34
	特別研究演習Ⅲ	3前	1				○		5	3	4	6		兼34
	小計(6科目)	—		6			—		5	3	4	6		兼34
実習	特別研究	1~3	18					○	5	2	2	6		兼34
	小計(1科目)	—	18				—		5	2	2	6		兼34
合計(17科目)		—	25	9			—		7	3	4	6		兼37
学位又は称号	博士(薬科学)		学位又は学科の分野				薬学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
本大学院薬学研究科に3年以上在学し、28単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 修了要件は、講義4科目4単位以上、演習6科目6単位、実習1科目18単位、計28単位以上とする。 なお、講義科目のうち、生命・環境科学領域の科目は1科目1単位まで修了要件単位に含めることができる。								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	医療薬学総論	<p>(概要) 医療薬学、薬学臨床及び生物・予防薬学等の領域において必要とされる知識を修得し、各領域の連環を理解することを目的に最新の情報を提供するとともに、薬物専門家としてのプロフェッショナルリズム教育を行う。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(2 大野行弘/1回) 中枢神経疾患の病態と治療薬について概説し、精神神経疾患の発症と治療に関するメカニズムを解説する。</p> <p>(1 松村人志/1回) 双極性障害(躁うつ病)の抑うつエピソードと、単極性うつ病の抑うつエピソードでは治療法が異なること等を例として、臨床疾患治療の歴史的変遷と今後の展開の可能性について考察する。</p> <p>(12 戸塚裕一/1回) 医薬品開発における製剤設計及び薬物の吸収に直結する溶解性とその制御法について解説する。</p> <p>(8 永井純也/1回) 臨床現場及び医薬品開発における薬物動態学の位置付けを概説し、薬物の体内動態に影響する要因とその制御法について解説する。</p> <p>(4 中村敏明/1回) 臨床における医薬品情報の活用について解説する。</p> <p>(11 中村任/1回) 医療リスクマネジメントにおける薬剤師の役割について概説し、医薬品安全管理の観点から薬剤師職能について考察する。</p> <p>(5 恩田光子/1回) 薬剤師が医療の質及び公衆衛生の向上に寄与するための課題について社会薬学の観点から概説する。</p> <p>(16 天満敬/1回) 各種疾患の予防、診断、治療に重要な役割を果たす画像診断の中でも特に核医学診断について、薬学の観点から概説する。</p> <p>(9 駒野淳/1回) 世界的に問題となっている多剤耐性菌に対するアプローチを予防・治療の観点から考える。</p> <p>(3 浦田秀仁/1回) 核酸医薬の治療薬としての作用発現機構、開発上の課題、及び現在の開発状況を概説する。</p>	オムニバス
	薬学倫理教育特論	<p>(概要) 科学者としての自覚を持つことができるように、科学研究の大切さや科学者に社会が求めていることを知るとともに、適切な研究活動を行い社会にどのように発信していくかを理解することを目的とする。さらに、研究活動を行う上での適切な研究倫理観と生命倫理観を身に付けることを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(46 大桃善朗/2回) 責任ある研究活動(科学者が社会に求められていること)、研究活動において必要な科学者の心得について指導する。</p> <p>(47 井上晴嗣/1回) 化学・ライフサイエンスにおける研究活動(研究室での活動、実験ノートのつけ方、実験データの保管)について指導する。</p> <p>(7 宮崎誠/1回) 研究の進め方、研究発表の意義や方法について指導する。</p> <p>(21 佐藤卓史*/1回) 人に対する研究における倫理の概要について指導する。</p> <p>(30 長谷井友尋/1回) 社会における研究倫理(研究者と社会の関係、社会における研究者の役割)とその動向について指導する。</p> <p>(46 大桃善朗・47 井上晴嗣・7 宮崎誠・21 佐藤卓史*・30 長谷井友尋/4回) 研究不正の事例から、SDGを実施し、レポートを作成を指導する。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	がん医療薬学特論*	<p>(概要) がん専門薬剤師となるための基礎的な実務知識の修得を目的とする。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 中村任/9回) 循環器疾患合併患者に対する化学療法の留意点、がん医療の地域における取組み、がん治療における分子標的薬、大腸がんの化学療法とチーム医療、抗がん剤の副作用を早期に発見するための検査値・身体所見の見方、がん教育のあり方、がん分子標的抗がん剤の基礎と応用について考察する。</p> <p>(11 中村任・35 内田まよこ*/2回) がん専門薬剤師が、緩和ケアの実践に際して理解する必要がある、抗がん剤及びオピオイド等の薬理作用、副作用情報、相互作用等について指導する。また、がん化学療法実施時の副作用対策を実践する上で理解する必要がある、皮膚障害対策や口腔ケアについて指導する。</p> <p>(17 井尻好雄/1回) がん専門薬剤師が、がん化学療法の実践に際して理解する必要がある、抗がん剤等の薬理作用、副作用情報及び漢方製剤の併用等について指導する。</p> <p>(23 芝野真喜雄/1回) がん専門薬剤師が、がん化学療法の実践に際して理解する必要がある、抗がん剤等の薬理作用、副作用情報及び漢方製剤の併用等について指導する。</p> <p>(6 岩永一範/1回) 抗がん剤と製剤設計について指導する。</p> <p>(7 宮崎誠/1回) Pharmacokinetic-Pharmacodynamic (PK-PD) 理論に基づいたがん化学療法と応用について学ぶ。</p> <p>* : 研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同 (一部)
	予防薬学特論 I	<p>(概要) 生活習慣病、感染症、ならびに環境化学物質に起因する疾病の発症の仕組みに関する研究を紹介し、これらの疾病の予防について薬学的視点から理解することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(15 奥平桂一郎/2回) 代表的な生活習慣病の種類、特徴、リスク要因等について指導する。</p> <p>(19 佐久間寛/1回) 環境汚染物質の体内動態、毒性および予防法について指導する。</p> <p>(52 藤森功/2回) 生薬をはじめとする天然物由来成分による肥満予防・骨疾患予防について指導する。</p> <p>(9 駒野淳/1回) 感染症の流行阻止にかかる疫学的重要性について指導する。</p> <p>(20 宮本勝城/1回) 感染症の流行を阻止する方法について指導する。</p> <p>(4 中村敏明/3回) 疾患にならないことを念頭に置いた日常生活への介入、重症化を回避するために取り組まれている予防、疾患や障害を抱えながらも社会生活を営むために必要な医療について考察する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	病態薬理学特論 I	<p>(概要) 代表的な循環器疾患、神経精神疾患、代謝性疾患、腎疾患並びにがん疾患をとりあげ、その成因及び病態について分子レベルからの知識を修得するとともに、疾患治療薬の作用様式について理解することを目的とする。 (オムニバス方式/全10回)</p> <p>(2 大野行弘/4回) 循環器疾患の成因について、精神疾患(統合失調症、ストレス性疾患)の成因並びにその治療薬の作用様式について指導する。 (10 大喜多守/2回) 腎疾患の成因並びにその治療薬の作用様式について指導する。 (18 坂口実/2回) がん疾患の成因並びにその治療薬の作用様式について指導する。 (52 藤森功/2回) 遺伝性代謝疾患の成因並びにその治療法、代謝異常疾患の遺伝要因と環境要因並びにその治療法について指導する。</p>	オムニバス
	病態解析学特論 I	<p>(概要) いくつかの疾患の病態について、学部では扱わなかったやや深いレベルでの解析を試みて、現実の医療に対する理解を深める。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 松村人志/1回) うつ病の抑うつ、躁うつ病の抑うつについて、治療薬に対する反応性について考察する。また、パーソナリティ障害について、何が疾患を形成するのかについて、掘り下げて考察する。 (13 福森亮雄/1回) アミロイドβを切り出す酵素すなわちγセクレターゼの基質結合部位の分子・アミノ酸レベルでの解明と今後の創薬の可能性について考察する。 (16 天満敬/2回) 循環器疾患の質的診断に用いられる核医学診断法と分子プローブについて考察する。また、がん関連領域の質的診断に用いられる核医学診断法と分子プローブについて考察する。 (9 駒野淳/1回) 現在流行する病原体がヒトで感染症を引き起こす分子メカニズムについて考察する。 (17 井尻好雄/3回) 最近の抗がん薬のDLTについて指導する。また、わが国の献血を起点とする「血液事業」に対する理解を高め、「輸血用血液製剤」「血漿分画製剤」などによって過去に起こった薬禍・薬害、血液製剤の適正使用の推進、安全で適正な輸血療法の推進について指導する。 (28 幸田祐佳/1回) 生活習慣病の病態を把握し、新しい知見も捉えた薬物治療から健康増進まで考察する。 (29 加藤隆児/1回) Precision medicine における各種 (diagnostic, early, prognostic) バイオマーカーについて指導する。また、コンパニオン診断とprecision medicineの推進について指導する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	医薬品動態制御学特論 I	<p>(概要) 医薬品開発及び臨床現場において必要とされる薬物動態や製剤設計に関する基礎知識を修得することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(8 永井純也/3回) 医薬品開発における薬物動態解析の基礎的アプローチ(薬物の吸収過程・分布過程・代謝過程等に関する薬物動態制御因子とその特徴)について解説する。</p> <p>(25 本橋秀之/2回) 医薬品開発における薬物動態解析の基礎的アプローチ(薬物の排泄過程等に関する薬物動態制御因子とその特徴、薬物動態制御因子の変動を考慮した薬物投与設計の基礎)について解説する。</p> <p>(12 戸塚裕一/3回) 医薬品開発における製剤設計の基礎的アプローチ(嚥下困難者への服用を考慮した製剤設計の基礎、吸入及び経肺を旨とした製剤の粒子設計の基礎、経皮吸収製剤に関する製剤設計の基礎)について指導する。</p> <p>(31 門田和紀/2回) 医薬品開発における製剤設計の基礎的アプローチ(小児製剤開発時の基礎的なアプローチ手法、小児の薬物動態を考慮した製剤設計の基礎)について指導する。</p>	オムニバス
	医療評価薬学特論 I	<p>(概要) 日本や諸外国における医療制度及び薬事政策、保健医療技術評価、医薬品に係るリスク管理のフレームワークについて概説する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(5 恩田光子/6回) 本の医療行政、日本の医療制度・医療保険制度、薬剤給付の動向、医療費適正化政策、諸外国における医療行政、諸外国の医療制度・医療保険制度、薬剤給付の動向、医療費適正化政策、療分野におけるテクノロジーアセスメントの諸相、テクノロジーアセスメントが生まれた背景とその意義、ヘルステクノロジーアセスメント (HTA) の概要、WHO等における実施概要、「医療の質」の捉え方、医療におけるリスクの諸相、医療の質評価の目的や意義、医療の質評価の実際、質評価の方法論、日本における事業としての医療機能評価、評価指標について指導する。</p> <p>(4 中村敏明/4回) リスク管理(薬害の歴史及び日本の薬事規制、医薬品の安全性評価)、医薬品の安全性評価(リスクコミュニケーションとリスク最小化、医薬品のリスク管理と日本の課題)について指導する。</p>	オムニバス
	薬学臨床特論 I	<p>(概要) 医薬品の適正使用に向けた薬剤師業務、臨床教育・研究を実践するために必要な研究立案や評価、教育の方法について解説する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(11 中村任/2回) 癌化学療法におけるバイオマーカーの基本・応用について考察する。</p> <p>(6 岩永一範/2回) 医薬品と食品間における相互作用が薬物の体内動態に及ぼす影響について指導する。</p> <p>(4 中村敏明/2回) 高齢者の薬物療法の基本と諸問題について考察する。</p> <p>(27 角山香織/2回) 基本的教育理論の基本、基本的教育理論に基づく指導案を作成について指導する。</p> <p>(26 細畑圭子/2回) 橋渡し研究及び研究手法の基本・応用について指導する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義	予防薬学特論Ⅱ	<p>(概要) 生活習慣病、感染症、ならびに環境化学物質に起因する疾病の発症の仕組みに関する研究を紹介し、これらの疾病の予防について薬学的視点から理解することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(15 奥平桂一郎/2回) 代表的な生活習慣病の発症に関わる生体システムの仕組み、生体システムの制御機構とその破綻としての生活習慣病について指導する。</p> <p>(19 佐久間寛/1回) 食品由来有害化学物質の体内動態、毒性および予防法について指導する。</p> <p>(52 藤森功/2回) エピジェネティクスと生命現象の制御及び疾患についてを指導する。また、エピジェネティクスを標的とした予防・診断・治療法について考察する。</p> <p>(9 駒野淳/1回) 病原ウイルスの宿主生体中における増殖機構とその制御法について指導する。</p> <p>(20 宮本勝城/1回) 病原細菌の宿主生体中における増殖機構とその制御法について指導する。</p> <p>(4 中村敏明/3回) 生活習慣病の予防(一次予防・二次予防・三次予防)について具体的な疾患例をあげて指導する。</p>	オムニバス
	病態薬理学特論Ⅱ	<p>(概要) 代表的な循環器疾患、神経精神疾患、代謝性疾患、腎疾患並びにがん疾患をとりあげ、その成因及び病態について分子レベルからの知識を修得するとともに、疾患治療薬の作用様式について理解することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(2 大野行弘/4回) 循環器疾患の治療薬の作用様式、神経疾患(パーキンソン病、てんかん)の成因並びにその治療薬の作用様式について指導する。</p> <p>(10 大喜多守/2回) 腎臓病(急性・慢性)の成因並びにその治療薬の作用様式について指導する。</p> <p>(18 坂口実/2回) 抗がん剤治療における最近の動向について考察する。</p> <p>(52 藤森功/2回) 代謝性疾患としての肥満の成因並びにその治療薬の作用様式について指導する。また、糖尿病や脂質代謝異常症の成因並びにその治療薬の作用様式について指導する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義	病態解析学特論Ⅱ	<p>(概要) いくつかの疾患の病態について、学部では扱わなかったやや深いレベルでの解析を試みて、現実の医療に対する理解を深める。(オムニバス方式・共同(一部)／全10回)</p> <p>(1 松村人志／1回) アルコール依存症を始めとするさまざまな依存症に共通の病態と神経科学的機序について考察する。</p> <p>(13 福森亮雄／1回) オプトプロテオミクスと呼ばれるケミカルバイオロジー技術が創薬にどのように役立つかについて考察する。</p> <p>(16 天満敬／2回) 循環器疾患の質的診断・治療を目的とした核医学診断・治療法と分子プローブ開発に関する最新の研究について考察する。また、がん関連領域の質的診断・治療を目的とした核医学診断・治療法と分子プローブ開発に関する最新の研究について考察する。</p> <p>(9 駒野淳／1回) 現在流行する感染症をテーマに病原体の伝搬ルートとその制御法について考察する。</p> <p>(17 井尻好雄／1回) 重篤副作用の初期症状についてのフィジカルアセスメント、重篤化を防止するための処置方法について指導する。</p> <p>(17 井尻好雄・29 加藤隆児／2回) 薬剤によるQT prolongationからTdP、心室細動及び低血糖のメカニズム、誘発する可能性のある薬物、それらの初期症状のフィジカルアセスメントについて指導する。また、薬剤によるアナフィラキシー・間質性肺炎・重症筋無力症・SJS/TENのメカニズム、誘発する可能性のある薬物、それらの初期症状のフィジカルアセスメントについて指導する。</p> <p>(28 幸田祐佳／1回) 糖尿病に合併した非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)の病態について把握し、NAFLD合併糖尿病患者に適した薬物治療について考察する。</p> <p>(29 加藤隆児／1回) がん遺伝子パネル検査、precision medicineの推進について指導する。また、ソリッド・リキッドバイオプシーについて指導する。</p>	オムニバス 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義	医薬品動態制御学特論Ⅱ	<p>(概要) 医薬品開発及び臨床現場において必要とされる薬物動態や製剤設計に関する最新の知識を多角的及び多面的に修得することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(12 戸塚裕一/3回) 医薬品開発における製剤設計とその応用(嚥下困難者への服用を考慮した製剤設計とその制御法、吸入及び経肺を旨とした製剤の粒子設計とその制御法、在宅医療での経皮吸収製剤に関する製剤設計とその制御法)について指導する。</p> <p>(31 門田和紀/2回) 医薬品開発における製剤設計とその応用(小児製剤の国内外を含めた最新動向、小児の薬物動態を考慮した製剤設計とその制御法)について指導する。</p> <p>(8 永井純也/3回) 医薬品開発における薬物動態解析とその応用(薬物の吸収過程・分布過程・代謝過程等に関係する諸要因とその制御法)について指導する。</p> <p>(25 本橋秀之/2回) 医薬品開発における薬物動態解析とその応用(薬物の排泄過程等に関係する諸要因とその制御法、薬物の体内動態制御によって有効性・安全性が高められた医薬品)について指導する。</p>	オムニバス
	医療評価薬学特論Ⅱ	<p>(概要) 保健医療技術評価(世界の趨勢を踏まえた、医薬品等の医療技術評価及び地域健康管理を含む)、医療の質評価の方法論、疫学のフレームワークと評価分析の方法論について解説する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(5 恩田光子/4回) 薬剤給付制度の国際比較、薬剤師業務に関連したテクノロジーアセスメントについて考察する。また、医療の質評価のフレームワーク、医療技術の費用対効果について考察する。</p> <p>(4 中村敏明/6回) 医薬品の臨床評価(抗血小板薬を例に実用的な臨床評価の手法、受容体に作用する薬剤の血中濃度、組織移行性を考慮した実用的な臨床評価、同種同効薬の臨床評価)について考察する。また、医薬品の安全性評価(治験、製造販売後臨床試験・調査、副作用症例調査、データマネジメント、レギュラトリーサイエンス、国際医学団体協議会、日米EU医薬品規制調和国際会議、リスク管理プロセス、シグナル検出、評価と調査、リスクコミュニケーション)について考察する。</p>	オムニバス
	薬学臨床特論Ⅱ	<p>(概要) 医薬品の適正使用に向けた薬剤師業務ならびに臨床教育・研究を実践するために必要な研究立案や評価ならびに教育の方法について解説する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(11 中村任/2回) 循環器薬物療法におけるバイオマーカーの基本・応用について考察する。</p> <p>(6 岩永一範/2回) 医薬品と飲料間における相互作用が薬物の体内動態に及ぼす影響について指導する。</p> <p>(4 中村敏明/2回) 小児、妊婦、授乳婦に対する薬物療法の基本・諸問題について考察する。</p> <p>(27 角山香織/2回) 基本的教育理論に基づく教育効果の基本、教育効果の評価について考察する。</p> <p>(26 細畑圭子/2回) コホート研究及び研究手法の基本・応用について指導する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	分子構造・機能解析学特論 I	<p>(概要) 主に感染症及び重要疾患発症に関与する標的分子の探索、及びその遺伝子発現調節機構などについて考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(49 福永理己郎/2回) 細胞の増殖・分化・死を制御する細胞外シグナルや細胞間相互作用に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。また、分子標的薬としてのプロテインキナーゼ阻害剤に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。</p> <p>(47 井上晴嗣/1回) バイオインフォマティクスの手法を用い、自然免疫に関わる代表的な血液タンパク質について、立体構造と機能発現の分子機構を考察する。</p> <p>(54 友尾幸司/2回) 認知症の発症に関与する生体分子のX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析と機能解析について考察する。また、トランスポータータンパク質のX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析と機能解析について考察する。</p> <p>(20 宮本勝城/2回) 次世代感染症治療薬を分子設計するための標的分子の探索及び解析について考察する。また、バイオマスの有効利用を目的とするキチン分解機構の分子生物学的解析について考察する。</p> <p>(53 尹康子/1回) 生理活性物質や機能性有機分子のX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析について考察する。</p> <p>(18 坂口実/1回) 動物細胞内プロテアーゼの構造及び機能について考察する。</p> <p>(55 箕浦克彦/1回) タンパク質やペプチドのNMRを用いた立体構造解析と決定した構造の評価について考察する。</p>	オムニバス
	分子構造・機能解析学特論 II	<p>(概要) 主に感染症及び重要疾患発症を引き起こす標的分子に対する特異的相互作用物質の探索と相互作用解析、構造活性相関、及び細胞内シグナル伝達機構などについて考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(49 福永理己郎/2回) 細胞の増殖・分化・死を制御する細胞内シグナル伝達の分子機構に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。また、分子標的薬としてのプロテインキナーゼ阻害剤に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。</p> <p>(47 井上晴嗣/1回) バイオインフォマティクスの手法を用い、代表的な動物毒素タンパク質について、立体構造と毒性発現の分子機構を考察する。</p> <p>(54 友尾幸司/2回) 翻訳開始因子の構造と機能及び翻訳開始反応制御機構について考察する。また、疾病発症に関与するタンパク質に対する特異的相互作用物質の探索とSPR法やITC法などの手法を用いた相互作用解析について考察する。</p> <p>(20 宮本勝城/2回) 病原微生物の病原因子の構造と機能について考察する。また、バイオマスの有効利用を目的とするキチン分解機構の分子生物学的解析について考察する。</p> <p>(53 尹康子/1回) 生理活性ペプチドや修飾ペプチドのX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析について考察する。</p> <p>(18 坂口実/1回) 細胞の増殖と死を制御する仕組みにおけるプロテアーゼの役割について考察する。</p> <p>(55 箕浦克彦/1回) 分光学的手法を用いた生体分子の機能解析について、認知症発症に関与するタンパク質を題材にして考察する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義	分子構造・機能解析学特論Ⅲ	<p>(概要) 主に感染症及び重要疾患治療薬の開発を目的とする標的分子の機能制御物質の分子設計、及びその活性評価などについて考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(49 福永理己郎/2回) 細胞の増殖・分化・死を制御する遺伝子発現調節機構に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。また、分子標的薬としてのプロテインキナーゼ阻害剤に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。</p> <p>(47 井上晴嗣/1回) バイオインフォマティクスの手法を用い、代表的な疾患関連タンパク質について、立体構造と病態発現の分子機構を考察する。</p> <p>(54 友尾幸司/2回) 認知症の発症に関与する標的分子と特異的相互作用物質複合体の立体構造解析と、その構造化学的知見に基づいた標的分子の機能制御物質の分子設計を行う。また、トランスポータータンパク質の立体構造解析と、その構造化学的知見に基づいた標的分子の機能制御物質の分子設計法について考察する。</p> <p>(20 宮本勝城/2回) 次世代感染症治療薬候補化合物の分子設計とその活性評価について考察する。また、病原微生物による病原因子と疾病発症機構との相関性について総括的に考察する。</p> <p>(53 尹康子/1回) 生理活性ペプチドや修飾ペプチドのNMR法及びX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析と生理活性との相関性について考察する。</p> <p>(18 坂口実/1回) 抗がん薬としてのプロテアーゼ阻害薬の可能性について考察する。</p> <p>(55 箕浦克彦/1回) 生体分子の構造と機能解析より得られる知見に基づいた治療薬の分子設計について、認知症を題材にして考察する。</p>	オムニバス
	創薬化学特論Ⅰ	<p>(概要) 医薬品などの機能性分子あるいは生体関連物質を創製するための理論と実態を最新の研究動向に基づいて解説する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(48 土井光暢/2回) 結晶構造解析法について考察する。</p> <p>(3 浦田秀仁/1回) 核酸のナノマテリアルとしての応用、及びその基礎的理論について考察する。</p> <p>(51 谷口雅彦/1回) 医薬品としての天然医薬品素材について考察する。</p> <p>(16 天満敬/1回) 放射性プローブの開発(放射性医薬品の特性)について考察する。</p> <p>(50 宇佐美吉英/1回) 注目されている生理活性天然物の合成について考察する。</p> <p>(24 山田剛司/1回) NMRスペクトルの解析を中心とした天然物の構造決定について考察する。</p> <p>(22 和田俊一/1回) 最新のペプチド合成法について考察する。</p> <p>(23 芝野真喜雄/1回) 漢方薬などの多成分系医薬品を例にその特徴について考察する。</p> <p>(14 平野智也/1回) 医薬品骨格を形成する構造要素とその機能について考察する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	創薬化学特論Ⅱ	<p>(概要) 医薬品などの機能性分子の機能発現様式の構造化学的基盤を最新の研究動向に基づいて解説する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(48 土井光暢/1回) 構造情報の取扱いについて考察する。 (3 浦田秀仁/1回) 核酸のナノマテリアルとしての応用例の構造化学的基盤を考察する。 (50 宇佐美吉英/1回) 生理活性天然物をリードとした新しい標的化合物の合成について考察する。 (51 谷口雅彦/1回) 天然医薬品素材から開発された医薬品について考察する。 (23 芝野真喜雄/1回) 漢方薬などの多成分系医薬品を例にその特徴について考察する。 (24 山田剛司/1回) 不斉中心を有する天然物の立体化学について考察する。 (22 和田俊一/1回) 種々の機能性ペプチドの構造について考察する。 (16 天満敬/1回) 核医学画像診断の特性について考察する。 (14 平野智也/2回) 医薬品骨格を形成する構造要素とその機能、最新の研究について考察する。</p>	オムニバス
	創薬化学特論Ⅲ	<p>(概要) 医薬品などの機能性分子の創製とその構造化学的基盤について考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(48 土井光暢/1回) 回折データの測定方法について考察する。 (3 浦田秀仁/1回) 核酸ナノマテリアルの化学修飾戦略を考察する。 (50 宇佐美吉英/1回) 受容体に対する合成標的分子の設計について考察する。 (51 谷口雅彦/1回) 最新の天然医薬品開発研究の動向について考察する。 (23 芝野真喜雄/1回) 様々な活性を示す天然物の活性を擬陽性という観点から考察する。 (24 山田剛司/1回) 最新の天然生理活性物質の絶対構造の解析について考察する。 (22 和田俊一/1回) 機能性ペプチドの構造(最新の機能性ペプチドの発見や設計から生体への応用まで)について考察する。 (16 天満敬/2回) 最新の放射性プローブ開発について考察する。 (14 平野智也/1回) 光を利用した疾患治療、診断の最新の研究について考察する。</p>	オムニバス
	e-Learning によるがん医療関連講義*	<p>筑波大学等8大学拠点からなる「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」プログラムにより、多職種から成るがん専門職業人に必要な知識を修得するため、e-Learning 教育システム「がんプロ全国e-Learning クラウド」が提供されている。がん治療の医療現場において活躍する薬剤師には、常に時代の最先端の知見と高度な技、及び多職種間の連携が求められる。科学的な根拠に基づいて現場の実践課題を判断し、安全で有効な医療を推進できるがん専門薬剤師、信頼される医療人、高い研究力を発揮してリーダーシップを取ることができる人材となるため、幅広い知識を修得することを目的とする。</p>	メディア

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演 習	外国文献講読	<p>最新の論文情報を迅速かつ正確に把握し、また、研究成果のプレゼンテーションや質疑応答に関するスキルを向上させるために、自身の研究テーマに関連する英語の学術論文やこれにつながる医療・臨床関連情報等を精読し、これらをまとめて研究室配属学生及び教員を対象に発表を行う。</p> <p>[医療薬学領域] (10 大喜多守) (2 大野行弘・42 清水佐紀*・45 國澤直史*) (52 藤森功・58 小池敦資*・62 前原都有子*) (17 井尻好雄・29 加藤隆児) (1 松村人志・28 幸田祐佳・37 田中早織*) (13 福森亮雄・32 山口敬子*) (16 天満敬・33 平田雅彦*・43 近藤直哉*)</p> <p>[薬学臨床領域] (8 永井純也・25 本橋秀之) (12 戸塚裕一・31 門田和紀・39 内山博雅*) (5 恩田光子・41 庄司雅紀*) (6 岩永一範・11 中村任・4 中村敏明・27 角山香織・26 細畑圭子・35 内田まやこ*)</p> <p>[生物・予防薬学領域] (54 友尾幸司・53 尹康子) (49 福永理己郎・56 藤井忍*) (18 坂口実・36 田中智*) (9 駒野淳・20 宮本勝城・34 土屋孝弘*) (15 奥平桂一郎・19 佐久間寛・40 東剛志*)</p> <p>[創薬化学領域] (48 土井光暢・57 浅野晶子*・63 加藤巧馬*) (14 平野智也・24 山田剛司・38 菊地崇*) (50 宇佐美吉英・59 米山弘樹*・60 葉山登*) (3 浦田秀仁・22 和田俊一・44 林淳祐*) (51 谷口雅彦・23 芝野真喜雄・61 平田佳之*)</p> <p>* : 研究指導補助教員</p>	
	外国文献講読*	<p>薬剤部等の臨床現場において必要ながんに関する最新の医療情報を収集してそれらに対する評価を加え、文献紹介を通じて総説する。また、がん専門薬剤師、大学教員、学生などを対象に、大きなテーマで外国文献紹介をする機会を設ける。</p> <p>(11 中村任・6 岩永一範・4 中村敏明・27 角山香織・26 細畑圭子・35 内田まやこ*)</p> <p>* : 研究指導補助教員</p>	* : 「がん専門薬剤師養成コース」のみ履修可能

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究所 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演 習	臨床連携治療演習	<p>(概要)</p> <p>臨床で活躍する薬剤師に求められる知識・技能の維持及び向上、さらにチーム医療における薬学的管理に必要な判断力、実践力を涵養する。(オムニバス方式/全12回)</p> <p>(4 中村敏明・35 内田まよこ*/1回)</p> <p>超高齢社会における医療、地域社会における薬剤師の位置づけ、役割について議論する。</p> <p>(4 中村敏明・6 岩永一範・11 中村任・26 細畑圭子・27 角山香織・35 内田まよこ*/11回)</p> <p>訪問看護ステーションの看護師に同行し、在宅医療の現状を体験する。体験した症例を元に、高齢社会における在宅医療の今後の在り方について議論する。また、特別養護老人ホームやグループホームなど、高齢者の介護施設を訪問し、高齢者福祉(介護、医療)の現状を体験する。体験した内容を元に、高齢社会における福祉の今後の在り方について議論する。最後は、医療・介護の体験を総合的に考察し、地域包括ケアシステムにおける他職種との関りならびに薬剤師の役割について議論し、レポートにまとめさせる。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同
	がん専門薬剤師 基盤育成演習Ⅰ*	<p>がん化学療法の薬剤調製(内用、外用、注射剤など)に関連する演習、及び医薬品管理・医薬品情報・院内製剤に関する演習を行う。</p>	共同
	がん専門薬剤師 基盤育成演習Ⅱ*	<p>緩和ケアで用いる薬剤調製(内用、外用、注射剤など)に関連する演習、及び医薬品管理・医薬品情報・院内製剤に関する演習を行う。</p>	共同
	がん専門薬剤師 基盤育成演習Ⅲ*	<p>患者の治療方針について、がん医療に関与するチームが実施するカンサーボードの見学を行う。また、がん患者の退院時指導を行う。</p>	共同
	がん臨床研修あるいは がん課題研究の成果発表 ならびにその関連分野の 総説的講演と質疑討論*	<p>がん専門薬剤師養成コースにおいて学ぶ学生たちが、連携する病院等の臨床現場において行った研究成果と、本学の所属研究室において実施した基礎研究の成果をまとめ、各年度ごとの成果として研究報告を行わせる。本学内における公開の発表会を基本とし、指導教員をはじめ、他のさまざまな領域から参加する教員や大学院生・学生との質疑応答を通じて、各自が取り組んでいる研究の問題点や発展するための課題を抽出し、新たな研究に結び付けることを目的とする。</p>	共同
	がん専門薬剤師 基盤育成演習Ⅳ*	<p>がんの病理組織検査、外科手術、放射線療法などを見学し、がん医療に関与するチームが実施する治療・検査内容を理解させることを目的とする。また、他のがん医療に関わる施設を見学し、地域におけるがん医療対策を理解させることを目的とする。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習	薬効評価演習	<p>(概要) 循環器疾患、神経精神疾患、腎疾患、がん疾患並びに代謝性疾患と関連薬物に関して調査研究を行い、各種薬物の薬効と作用様式について理解することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(2 大野行弘・42 清水佐紀*・45 國澤直史*/4回) 循環器疾患の新規治療薬に関する開発状況や将来の展望、精神神経疾患の新規治療薬に関する開発状況や将来の展望について考察する。 (10 大喜多守/2回) 腎疾患の新規治療薬に関する開発状況や将来の展望について考察する。 (18 坂口実・36 田中智*/2回) がん疾患の新規治療薬に関する開発状況や将来の展望について考察する。 (52 藤森功・58 小池教資*・62 前原都有子*/2回) 代謝性疾患の新規治療薬に関する開発状況や将来の展望について考察する。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同
	健康環境予防評価演習	<p>(概要) 生活習慣、感染症あるいは環境化学物質が生体に及ぼす影響等に関する研究資料をもとに健康影響を評価する能力の向上を目指して演習を行う。 (オムニバス方式/全10回)</p> <p>(15 奥平桂一郎・4 中村敏明・9 駒野淳/4回) 生活習慣あるいは環境化学物質が生体に及ぼす影響と予防策等の主題について指導し、文献調査及び討議を重ね、中間発表へ向けて準備させる。 (19 佐久間覚・20 宮本勝城・34 土屋孝弘*・40 東剛志*/4回) 学生自らが討議し、教員とディスカッションさせ、テーマならびに各自の作業課題を設定させる。また、中間発表及び討論内容を参考に、学生自らが文献調査及び討議を重ね、最終発表へ向けて準備させる。 (15 奥平桂一郎・4 中村敏明・9 駒野淳・19 佐久間覚・20 宮本勝城・34 土屋孝弘*・40 東剛志*/2回) 中間発表・最終発表を行わせ、議論する。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同
	処方解析演習	<p>(概要) より高度な処方解析能力を修得することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(6 岩永一範・35 内田まよこ*/3回) 課題処方(1)(7)に関する解析内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行わせる。 (11 中村任・35 内田まよこ*/2回) 課題処方(2)(8)に関する解析内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行わせる。 (4 中村敏明・35 内田まよこ*/2回) 課題処方(3)(9)に関する解析内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行わせる。 (27 角山香織・35 内田まよこ*/1回) 課題処方(4)に関する解析内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行わせる。 (26 細畑圭子・35 内田まよこ*/1回) 課題処方(5)に関する解析内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行わせる。 (35 内田まよこ*/1回) 課題処方(6)に関する解析内容のプレゼンテーション及び質疑応答を行わせる。</p>	オムニバス 共同

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演 習	病態評価演習	<p>(概要) 類似の症状を示すさまざまな病態について、自分たちで調べ、また、教員と議論させて知識を深めていくことにより、病態評価のアプローチの仕方を身に付けることを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 松村人志・13 福森亮雄・28 幸田祐佳・32 山口敬子*・37 田中早織*/4回) 頭痛の病態評価にあたり、それぞれの特徴や症状について調べさせ、教員と議論させる。また、リストアップされた疾患をどのようにして見分けることができるのか、教員と議論させ、フローチャートを作成させる。リストアップした各疾患の治療方法について調べさせ、今までの演習成果をレポートにまとめさせる。</p> <p>(17 井尻好雄・29 加藤隆児/3回) 「心不全フレイル」の病態を理解させ、その治療法・治療薬について検討させ、レポートを作成させる。各種がん患者の処方箋から病名を推察させ、TNM分類により病態解析を行い、今後の治療戦略についてレポートを作成させる。Stevens-Johnson症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤性過敏症候群、薬物性肝障害の発症機序を検討させ、その予測予防法について考察させる。また、重篤副作用についてレポートを作成させる。</p> <p>(16 天満敬・33 平田雅彦*・43 近藤直哉*/3回) 代表的な放射性医薬品のひとつに注目して、その特性及びそれが適用される病態について調べさせる。放射性医薬品と病態の観点から教員させ、核医学的診断法について考察を深める。また、当該病態領域において用いられる放射性医薬品を原著論文を含めて広く調べ、レポートにまとめるさせる。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同
	医療評価演習	<p>(概要) 疫学研究、臨床研究及び医薬品情報(添付文書、インタビューフォーム)における評価手法を理解し、研究技能の向上を目指した演習を行う。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(5 恩田光子・41 庄司雅紀*/4回) (共同) 情報の収集と評価、研究デザイン、変数の測定を行わせる。また、臨床研究における倫理的配慮について指導する。</p> <p>(12 戸塚裕一・39 内山博雅*/1回) (共同) ジェネリック医薬品と医薬品添付文書から製剤設計に係る医薬品情報を読み解くさせる。</p> <p>(31 門田和紀・39 内山博雅*/2回) (共同) 医薬品添付文書及びインタビューフォームにおける医薬品添加剤情報を収集させ、医薬品添加剤情報からの製剤設計の分析・推測を行わせる。</p> <p>(8 永井純也/1回) 医薬品添付文書及びインタビューフォームにおける薬物動態情報を収集させる。</p> <p>(25 本橋秀之/2回) 薬物動態情報の分析を行わせ、医療現場への薬物動態情報の還元について考察する。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習	治験・臨床試験演習	<p>(概要) 治験及び臨床試験における薬学的評価手法を理解し、研究技能の向上を目指した演習を行う。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(11 中村任・35 内田まよこ*/3回) 臨床試験の概説講義を行う。また、中間発表及び最終発表を行わせ、討論する。</p> <p>(11 中村任・6 岩永一範・4 中村敏明・27 角山香織・26 細畑圭子・35 内田まよこ*/1回) 治験・臨床試験における有効性と安全性の評価ならびに製剤設計や医療統計等の関連項目について討議し、テーマならびに各自の作業課題を設定させる。</p> <p>(11 中村任・6 岩永一範・35 内田まよこ*/2回) 自らが文献調査及び討議を行わせ、中間発表へ向けて準備させる。また、中間発表及び討論内容を参考に、文献調査及び討議を重ねさせ、最終発表へ向けて準備させる。</p> <p>(4 中村敏明・27 角山香織・35 内田まよこ*/2回) 自らが文献調査及び討議を行わせ、中間発表へ向けて準備させる。また、中間発表及び討論内容を参考に、文献調査及び討議を重ねさせ、最終発表へ向けて準備させる。</p> <p>(26 細畑圭子・35 内田まよこ*/2回) 自らが文献調査及び討議を行わせ、中間発表へ向けて準備させる。また、中間発表及び討論内容を参考に、文献調査及び討議を重ねさせ、最終発表へ向けて準備させる。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同
	創薬化学演習	<p>(概要) 医薬品などの機能性分子あるいは生体関連物質を創製するための理論と実際を、最新の研究動向に触れながら理解を深めることを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(50 宇佐美吉英・59 米山弘樹*・60 葉山登*/2回) 創薬における複素環化学領域の最新知見について指導し、創薬における複素環化学領域の最新知見について調査・発表させる。</p> <p>(14 平野智也・38 菊地崇*/1回) 生体機能制御、疾患治療に用いられる光機能性分子の最新知見について指導する。</p> <p>(14 平野智也・24 山田剛司・38 菊地崇*/1回) 生体機能制御、疾患治療に用いられる光機能性分子の最新知見について調査・発表させる。</p> <p>(3 浦田秀仁・44 林淳祐*/1回) 創薬における核酸化学領域の最新知見について指導する。</p> <p>(3 浦田秀仁・22 和田俊一・44 林淳祐*/1回) 創薬における核酸化学領域の最新知見について調査・発表させる。</p> <p>(48 土井光暢・57 浅野晶子*・63 加藤巧馬*/2回) 中分子医薬品の開発コンセプトについて指導し、すでに治療に用いられている中分子医薬品について調査・発表させる。</p> <p>(51 谷口雅彦・61 平田佳之*/1回) 天然資源をもとにした創薬の最新知見について指導する。</p> <p>(51 谷口雅彦・23 芝野真喜雄・61 平田佳之*/1回) 天然資源をもとにした創薬の最新知見について調査・発表させる。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同 講義10時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>(概要) 薬学臨床領域、医療薬学領域、生物・予防薬学領域、創薬化学領域それぞれの研究室における研究テーマに沿った研究の実践・指導を行うとともに、学位論文の作成指導を行う。</p> <p>[薬学臨床領域] (6 岩永一範・11 中村任・4 中村敏明・27 角山香織・26 細畑圭子・35 内田まよこ*) <ul style="list-style-type: none"> ・服用メディアの違いによる薬物の消化管吸収変動の解析 ・癌化学療法の有効性と安全性に対するバイオマーカーの探索と臨床評価 ・医薬品情報の評価および活用に関する研究 ・各種医療データベース解析に基づく医薬品適正使用に関する臨床薬学研究 ・個別化医療を目指した薬物動態制御タンパク質のファーマコゲノミクス研究 </p> <p>(5 恩田光子・41 庄司雅紀*) <ul style="list-style-type: none"> ・医師－薬剤師連携による高齢者の薬物療法適正化に関する研究 ・薬剤師による在宅ケアサービスのアウトカムに関する研究 ・慢性疾患管理による地域ケアモデルの構築とその臨床・経済的効果に関する研究 ・薬局におけるセルフメディケーション支援サービスの普及に関する研究 ・薬局を起点とした認知症早期発見体制の構築に関する研究 ・介護施設における薬物療法上の問題と薬剤師による関与の効果に関する研究 ・医薬品情報の授受に関するギャップ分析 ・服薬アドヒアランスへの影響要因に関する研究 ・諸外国における薬剤師業務の比較研究 </p> <p>(8 永井純也・25 本橋秀之) <ul style="list-style-type: none"> ・病態時における薬物動態変動の分子機構解析とそれに基づく薬物投与方法の最適化に関する研究 ・薬物動態制御分子を標的とした薬効増強及び副作用低減に関する研究 ・間葉系幹細胞を利用した医薬品の有効性・安全性の向上と細胞医薬品としての有効性評価に関する研究 </p> <p>(12 戸塚裕一・31 門田和紀・39 内山博雅*) <ul style="list-style-type: none"> ・難水溶性医薬品の溶解性と吸収性改善に関する研究 ・機能性添加剤を用いたナノ複合体形成とその応用に関する研究 ・機能性微粒子の開発に関する研究 </p> <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[医療薬学領域] (10 大喜多守)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンドセリンの生合成機構と病態薬理学的研究 ・一酸化窒素の病態生理学的研究 ・急性腎障害 (AKI) 並びに慢性腎臓病 (CKD) に関する薬理学的研究 ・各種循環器疾患に対する新規治療薬の開発研究 ・腎臓及び心臓の交感神経活動とその調節機構に関する研究 ・各種機能性食品の薬理学的研究 <p>(2 大野行弘・42 清水佐紀*・45 國澤直史*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神神経疾患の病態および薬物治療研究 ・セロトニン神経系の機能解析および創薬応用研究 ・新たな神経疾患モデルの開発と治療薬探索研究 ・中枢神経作用薬の薬理研究 <p>(52 藤森功・58 小池敦資*・62 前原都有子*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脂質メディエーターとそれらの代謝物の機能と産生調節機構に関する研究 ・脂質メディエーターによる各種疾患制御の分子機構の解明と調節化合物の開発 ・肥満制御の分子機構と新規抗肥満薬開発に関する研究 ・エピジェネティック制御に関する研究 <p>(17 井尻好雄・29 加藤隆児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化・心不全の発症・進展に関する分子形態メカニズムとストレス応答 ・睡眠時無呼吸症候群に関連する間歇的低酸素負荷と戦略的ラジカルスカベンジャー療法 ・薬剤性肝障害等の重篤副作用の予測・予防・治療法に関する研究 ・抗がん薬の体内動態に関する研究 <p>(1 松村人志・28 幸田祐佳・37 田中早織*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳機能を維持するための体内機序、特に睡眠の調節系とその役割に関する研究 ・統合失調症や依存症等の精神疾患とその治療薬に関する臨床研究及び基礎研究 ・耐糖能異常と生活習慣病の発症・進展機序に関する研究 ・生体防御の視点からみた上皮膜機能に関する研究 <p>(13 福森亮雄・32 山口敬子*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の病態解明と診断・治療法開発に関する基礎・臨床研究 ・自己免疫性脳炎の病態解明と診断法の開発に関する基礎・臨床研究 ・非天然アミノ酸を用いた受容体のリガンドを探索する基礎研究 ・Crispr/Cas9を用いたノックイン動物の作成とその解析 ・有機試薬の合成とその構造解析並びに分析化学への応用に関する研究 ・病態関連物質の測定法の開発に関する研究 ・生理活性作用を有する金属錯体の創製に関する研究 <p>(16 天満敬・33 平田雅彦*・43 近藤直哉*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PET・SPECT画像診断用放射性医薬品の開発に関する研究 ・MRI・光イメージングのための分子プローブ開発に関する研究 ・がんの早期質的診断並びに治療効果判定に関する分子イメージング研究 ・中性子捕捉療法によるがんの治療のための薬剤開発研究 ・病態モデル動物を用いた各種疾患の診断・治療法開発に関する研究 <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[生物・予防薬学領域]</p> <p>(15 奥平桂一郎・19 佐久間覚・40 東剛志*) ・動脈硬化関連因子の機能と生理的意義に関する研究 ・がん治療を指向した製剤開発に関する研究 ・細胞内タンパク質分解誘導による新規抗がん剤の開発研究 ・核酸による遺伝子発現制御機構に関する研究 ・酸化ストレスが関与する病態発症機序と制御因子に関する研究 ・脳血管内皮細胞のtight junctionの分子機構と制御因子に関する研究 ・医薬品による環境汚染の動態と除染技術の開発</p> <p>(9 駒野淳・20 宮本勝城・34 土屋孝弘*) ・バイオマスの有効利用を目的とするキチン及びキシラン分解機構に関する分子生物学的研究 ・感染症治療薬の開発を目的とする病原微生物による疾病発症機構に関する分子生物学的研究 ・病原微生物の免疫系に与える影響とその排除機構に関する免疫学的解析</p> <p>(18 坂口実・36 田中智*) ・がん細胞増殖に対する薬物の効果と作用機構に関する研究 ・タンパク質分解酵素の細胞生物学的機能解析とその阻害薬に関する応用研究 ・細胞の生存や傷害保護及び分化促進活性を有する化合物の探索研究</p> <p>(49 福永理己郎・56 藤井忍*) ・造血サイトカインによる細胞増殖・分化の分子メカニズムの研究 ・プロテインキナーゼを介した細胞内シグナル伝達機構の研究 ・リン脂質加水分解酵素の酵素機能の分子論 ・血清由来ホスホリパーゼA2阻害タンパク質の構造と機能 ・ロイシンリッチα2グリコプロテインの機能解明</p> <p>(54 友尾幸司・53 尹康子) ・タンパク質合成開始因子の構造機能解析 ・タウタンパク質の自己重合機構の解明と阻害低分子の開発 ・放線菌におけるキシロオリゴ糖細胞内輸送機構の解明 ・酵素阻害剤の分子設計</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[創薬化学領域]</p> <p>(14 平野智也・24 山田剛司・38 菊地崇*) ・海洋生物由来真菌の産生する細胞毒性物質に関する研究 ・新しい細胞毒性物質産生菌の探索 ・創薬を目的としたテルペノイド類の生理活性及び活性機構に関する研究 ・ブラジル原産植物アンデローバのリモノイドに関する研究 ・ヒラタケ科キノコに関する有機化学的研究</p> <p>(3 浦田秀仁・22 和田俊一・44 林淳祐*) ・プロドラッグ型新規修飾核酸の合成とRNA干渉などを利用した遺伝子発現制御分子の開発 ・プロドラッグ型siRNAを用いた家族性高コレステロール血症治療薬の開発 ・細胞内移送能を有する細胞膜透過性ペプチドの開発 ・細胞膜透過性ペプチドの核酸医薬細胞内デリバリーツールとしての応用 ・がん細胞を可視化するペプチド性イメージング分子の開発 ・金属イオン架橋型塩基対の形成を介するDNAポリメラーゼの複製反応に関する研究 ・非天然型鏡像体核酸の合成とその高い生体内安定性を利用した細胞情報可視化ナノ分子の開発</p> <p>(48 土井光暢・57 浅野晶子*・63 加藤巧馬*) ・ペプチドのコンホーメーションコントロールに関する研究 ・アミロイド線維の形成機構に関する研究 ・機能的ペプチドの構造解析とデザイン</p> <p>(50 宇佐美吉英・59 米山 弘樹*・60 葉山登*) ・抗腫瘍性海洋天然物及びその類縁体の合成と生理活性に関する研究 ・新規複素環化合物の合成研究 ・テトラゾールからカルベンの発生活性を応用した新規合成反応の開発 ・ヒスタミンH3アンタゴニストをシードとする生理活性物質の創製研究 ・創薬研究で求められる天然に存在しないアミノ酸の効率的な供給を目的とした容易に調達可能な原料基質を直接変換する新たな触媒反応の開発</p> <p>(51 谷口雅彦・23 芝野真喜雄・61 平田佳之*) ・各種生薬成分の構造解析と生理活性に関する研究 ・サプリメントの有用性に関する研究 ・生薬および漢方製剤の品質評価法に関する研究 ・生薬熱水抽出エキス中の生理活性物質に関する研究</p> <p>* : 研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬学専攻博士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	薬学臨床研修・特別研究* *：「がん専門薬剤師養成 コース」のみ履修可能	大阪大学医学部附属病院等の、連携するがん専門薬剤師研修認定医療機関において、がん専門薬剤師・指導薬剤師等の指導の下にがん治療を行い、その症例研究を進める。あるいは、臨床の結果をもとに、大学・研究機関との連携により、がん医療に関する臨床研究を行う。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

別記様式第2号（その3の1）

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	構造生物学特論	<p>(概要) X線回折法、核磁気共鳴法、分子動力学計算の生物物理化学的手法を学び、医薬品の分子設計に必要な構造生物学解析法の基礎知識とその応用法について修得することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(24 友尾幸司/3回) X線結晶構造解析の原理(分子結晶や回折現象およびX線結晶構造解析法)、X線結晶構造解析の実際(蛋白質、核酸などの生体分子の構造とその構造解析法)、分光化学的手法による構造機能解析について指導する。 (21 尹康子/2回) X線結晶構造解析の実際(X線結晶構造解析法を用いた立体構造解析)、X線結晶構造解析の実際(生理活性ペプチド、機能性有機分子のX線結晶構造解析法による立体構造解析例)について指導する。 (30 箕浦克彦/3回) 核磁気共鳴法の原理(溶液中での立体構造解析のための基本原理)、核磁気共鳴法の実際(溶液中での立体構造解析のための具体的方法)、核磁気共鳴法の実際(蛋白質、核酸などの生体分子やそれらの複合体の構造解析におけるNMR法の応用)について指導する。 (40 平田雅彦/2回) 医薬品の分子設計(構造情報を基にした生理活性物質の開発)、医薬品の分子設計(構造情報を基にした生理活性物質の応用)について指導する。</p>	オムニバス
	生物科学特論	<p>(概要) 生命科学の基本となる分子生物学、細胞生物学、微生物学などに関する最近の研究ならびに学術論文を紹介し、生命現象を分子のレベルで理解することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(5 福永理己郎/1回) 遺伝子の発現調節機構(増殖・分化因子による遺伝子発現制御)について指導する。 (3 井上晴嗣/2回) タンパク質の構造と機能(動物毒素タンパク質の種類と構造、毒性発現機構、自然免疫に関わる血液タンパク質の構造と機能)について指導する。 (25 宮本勝城/2回) 遺伝子の発現調節機構(細菌のキチン分解機構)について指導する。 (22 坂口実/2回) タンパク質の構造と機能(タンパク質加水分解酵素の種類と構造)について指導する。 (38 藤井忍/2回) タンパク質の構造と機能(リン脂質加水分解酵素の種類と生体内での役割、リン脂質加水分解酵素の触媒機構)について指導する。 (43 土屋孝弘*/1回) 遺伝子の発現調節機構(免疫学的実験法を用いたタンパク質発現解析)について指導する。</p> <p>*: 研究指導補助教員</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	生体機能分析学特論	<p>(概要) 医薬品や生体成分の測定、生体機能の解析、医薬品の特性の解析法について、基礎的知識を修得することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(4 土井光暢/2回) 固相分析法(線回折、主な結晶学的表記)について指導する。</p> <p>(19 天満敬/2回) 分子イメージング法(分子イメージング法の特徴・応用)について指導する。</p> <p>(26 佐藤卓史/2回) 生物学的分析法(主な生物学的分析法とその応用)について指導する。</p> <p>(42 浅野晶子/2回) 分子間相互作用解析法(分子間相互作用の特徴と研究方法)について指導する。</p> <p>(40 平田雅彦/2回) 生体機能画像診断法(生体機能画像診断法の基礎理論と応用)について指導する。</p>	オムニバス
	薬化学特論	<p>(概要) 医薬品などの機能性を持つ有機分子あるいは生体関連分子を創製するための理論と実際について、基礎的事項を修得し、最新の研究動向について理解することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(8 宇佐美吉英/2回) 天然有機化学における有機合成化学の役割(立体選択的反応、天然有機化合物の全合成による構造決定の方法や意義)、生理活性有機化合物の合成経路の開発(抗インフルエンザ薬や抗腫瘍性天然有機化合物の効率的合成経路の開発及び発展)について指導する。</p> <p>(17 平野智也/2回) 機能性分子のデザインと開発戦略(医薬品を含む様々な機能を持つ分子の開発戦略の概要及び発展)、ケミカルバイオロジー概論(化学を利用して生命現象の解明を目指すケミカルバイオロジーとよばれる研究領域)について指導する。</p> <p>(7 浦田秀仁/3回) 核酸の化学合成法(液相法、固相法を用いたDNA、RNAの合成法)、機能性核酸と化学修飾(核酸医薬に応用される機能性核酸とその化学修飾)、次世代修飾核酸(次世代修飾核酸としてのプロドラッグ型修飾核酸)について指導する。</p> <p>(27 和田俊一/2回) ペプチド合成(液相法、固相法を用いたペプチド合成法)、機能性ペプチドの設計・合成とその応用(アンチセンス法やsiRNAなどに用いられる核酸分子を細胞内に運ぶ機能性ペプチド)について指導する。</p> <p>(36 藤嶽美穂代/1回) 質量分析法(質量分析法の基礎及び技術開発、活用例)について指導する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	生薬・天然物化学特論	<p>(概要) 医薬品の開発・創薬・応用に係る生薬及び自然界に存在する植物・動物・菌類由来の生理活性物質を探索するための基本的な技術(抽出、単離、構造解析、評価法等)の修得を目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(9 谷口雅彦/3回) 天然薬物成分の構造解析・生物活性(天然薬物成分の構造解析、生物活性)、天然医薬品素材について指導する。</p> <p>(29 山田剛司/3回) 海洋天然物の生理活性成分(海洋天然物について最新の研究実例)について指導する。</p> <p>(28 芝野真喜雄/3回) 生薬の品質評価法の開発(多成分系医薬品である生薬の品質)、生薬の国内生産と原料問題(生薬の資源枯渇とその対策及び高品質な生薬の安定供給の重要性)について指導する。</p> <p>(41 山沖留美/1回) 天然物由来医薬品原料の放射線殺菌について指導する。</p>	オムニバス
	環境科学特論	<p>(概要) 健康の維持増進、さらには疾病の予防の観点から、「健康」と「環境」に関する最新の情報や研究成果を含む内容について理解させ、新たなテーマを発掘するための糸口を見出し、研究展開に役立てるようにすることを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(11 藤森功/2回) 肥満と生活習慣病(生活習慣病の発症における肥満と科学的解析)、睡眠障害と生活習慣病(睡眠の異常と生活習慣病発症との関連の解析)について指導する。</p> <p>(13 駒野淳/2回) 感染症における環境サーベイランス、医療機関における環境サーベイランスについて指導する。</p> <p>(18 奥平桂一郎/2回) 医薬品、特に新しい創薬モダリティの安全性評価、食品安全のリスク管理およびリスク評価の重要性について指導する。</p> <p>(23 佐久間寛/2回) 化学物質の存在形態と毒性(化学物質の環境内や体内における分布・循環・代謝変化・毒性、食品汚染物質の環境内や体内における分布・循環・代謝変化・毒性)について指導する。</p> <p>(25 宮本勝城/1回) 病原微生物による感染症の予防・治療について指導する。</p> <p>(43 土屋孝弘*/1回) 環境中に存在するアレルゲンとアレルギー反応との関連について指導する。</p> <p>*: 研究指導補助教員</p>	オムニバス
	薬理学特論	<p>(概要) 代表的な循環器疾患、神経精神疾患、腎疾患を取り上げ、その成因について分子レベルからの知識を修得するとともに、新規治療薬の開発状況を知り、かつその作用様式について理解することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(6 大野行弘/6回) 循環器疾患と薬物治療(高血圧や虚血性心疾患の成因並びにその治療薬の作用様式)、精神神経疾患と薬物治療(代表的な精神神経疾患の成因並びにその治療薬の作用様式)について指導する。</p> <p>(14 大喜多守/2回) 慢性腎臓病の発症と進展機構(慢性腎臓病の発症と進展機構並びにその治療薬の作用様式)について指導する。</p> <p>(39 河合悦子/2回) 薬物性腎障害の発症と進展機構(薬物性腎障害の発症と進展機構並びにその治療薬の作用様式)について指導する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	薬物生体機能科学特論	<p>(概要) 薬物の体内動態に関する最新の知見やDDSの最新技術について理解することを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(15 戸塚裕一/3回) DDS製剤の開発(経口投与製剤のDDS、経皮吸収製剤のDDS、その他製剤のDDS)について指導する。</p> <p>(12 永井純也/3回) 薬物動態支配因子とその制御(薬物動態を支配する生体側因子を標的とした制御法)、医薬品開発と薬物動態解析(医薬品開発過程における薬物動態解析の役割)について指導する。</p> <p>(31 本橋秀之/2回) 薬物動態支配因子とその制御(薬物動態の精密制御を行うための方法論)、臨床現場と薬物動態解析(臨床現場における薬物動態解析の役割)について指導する。</p> <p>(35 門田和紀/2回) 医薬品の投与経路別製剤設計(経口投与製剤の溶解度、吸入製剤の粒子設計)について指導する。</p>	オムニバス
講 義	領域統合型先端科学特論	<p>(概要) 3領域における先端的研究事例等を解説し、理解を深めることを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(5 福永理己郎/1回) 分子構造・機能解析領域：がんや炎症性疾患の治療に用いられる分子標的治療薬の開発背景及びその現状・展望について指導する。</p> <p>(24 友尾幸司/1回) 分子構造・機能解析領域：様々な疾病発症に関連する生体分子の構造機能研究及びそれらの立体構造を基にした創薬研究について指導する。</p> <p>(9 谷口雅彦/1回) 創薬化学領域：薬理・生化学的実験に基づく肌の老化を防止する天然薬物について指導する。</p> <p>(17 平野智也/1回) 創薬化学領域：疾患診断および治療に利用される蛍光物質などの光機能性分子の構造と機能、さらにその開発戦略について指導する。</p> <p>(4 土井光暢/1回) 創薬化学領域：最先端の分子グラフィックスシステムが提示する非常に精緻な画像を、分子構造が本来もつ情報精度に基づいて多角的に理解するために必要な知識を指導する。</p> <p>(7 浦田秀仁/1回) 創薬化学領域：オリゴヌクレオチドを化学修飾することにより獲得できる新規な化学的特性を応用し、化学合成オリゴヌクレオチドを核酸医薬に応用する分子設計理論について指導する。</p> <p>(18 奥平桂一郎/1回) 生命・環境科学領域：生体における脂質代謝機構とその破綻による疾患発症の機序と、予防法や薬物治療の現状と展望について指導する。</p> <p>(13 駒野淳/1回) 生命・環境科学領域：宿主と病原微生物の相互作用を分子レベルで理解のための最新の研究から関連する話題について指導する。</p> <p>(11 藤森功/1回) 生命・環境科学領域：生体内で様々な機能をもつエイコサノイドの産生異常により起こる疾患の治療、病態の改善を目的とした薬剤開発の最新の話題について指導する。</p> <p>(6 大野行弘/1回) 生命・環境科学領域：身体機能の司令塔である脳の神経伝達について、「モノアミン神経系」を取り上げ、中枢神経疾患の発症と治療における役割を指導する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義	薬学倫理教育特論 I	<p>(概要) 科学者としての自覚を持つことができるように、科学研究の大切さや科学者に社会が求めていることを知るとともに、適切な研究活動を行い社会にどのように発信していくかを理解することを目的とする。さらに、研究活動を行う上での適切な研究倫理観と生命倫理観を身に付けることを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(2 大桃善朗/2回) 責任ある研究活動(科学者が社会に求められていること)、研究活動において必要な科学者の心得について指導する。</p> <p>(3 井上晴嗣/1回) 化学・ライフサイエンスにおける研究活動(研究室での活動、実験ノートのつけ方、実験データの保管)について指導する。</p> <p>(10 宮崎誠/1回) 研究の進め方、研究発表の意義や方法について指導する。</p> <p>(26 佐藤卓史/1回) 人に対する研究における倫理の概要について指導する。</p> <p>(34 長谷井友尋/1回) 社会における研究倫理(研究者と社会の関係、社会における研究者の役割)とその動向について指導する。</p> <p>(2 大桃善朗・3 井上晴嗣・10 宮崎誠・26 佐藤卓史・34 長谷井友尋/4回) 研究不正の事例から、SDGを実施し、レポートを作成を指導する。</p>	オムニバス 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習	特別演習 (PBL)	<p>領域毎に、研究内容に即した最新の学術論文の内容説明や質疑応答を通じて、自分自身の研究における問題点・その解決方法、また、研究者としての発表態度、プレゼンテーション技術などを養成するためのPBL型教育指導を行う。</p> <p>[分子構造・機能解析学領域] (5 福永理己郎・24 友尾幸司・21 尹康子・30 箕浦克彦・22 坂口実・38 藤井忍・44 田中智*)</p> <p>[創薬化学領域] (4 土井光暢・7 浦田秀仁・9 谷口雅彦・8 宇佐美吉英・17 平野智也・29 山田剛司・27 和田俊一・28 芝野真喜雄・42 浅野晶子・41 山沖留美・36 藤嶽美穂代・46 米山弘樹*・47 菊地崇*・53 平田佳之*・57 加藤巧馬*・56 林淳祐*・51 葉山登*)</p> <p>[生命・環境科学領域] (1 松村人志・6 大野行弘・15 戸塚裕一・12 永井純也・11 藤森功・19 天満敬・13 駒野淳・14 大喜多守・18 奥平桂一郎・16 福森亮雄・20 井尻好雄・23 佐久間覚・25 宮本勝城・32 幸田祐佳・33 加藤隆児・35 門田和紀・31 本橋秀之・37 山口敬子・40 平田雅彦・43 土屋孝弘*・49 東剛志*・48 田中早織*・50 内山博雅*・45 小池敦資*・52 清水佐紀*・54 近藤直哉*・55 前原都有子*・58 國澤直史*)</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	
	特別演習 (外国文献講読等)	<p>自身の研究テーマに関連する英語の学術論文について精読させ、研究室でのセミナーにおいて文献紹介を行わせる。また、研究成果の学会でのプレゼンテーションと学術誌投稿のための論文作成指導を行う。</p> <p>[分子構造・機能解析学領域] (24 友尾幸司・21 尹康子) (22 坂口実・44 田中智*) (5 福永理己郎・38 藤井忍)</p> <p>[創薬化学領域] (8 宇佐美吉英・46 米山弘樹*・51 葉山登*) (7 浦田秀仁・27 和田俊一・56 林淳祐*) (4 土井光暢・42 浅野晶子・57 加藤巧馬*) (17 平野智也・29 山田剛司・47 菊地崇*) (9 谷口雅彦・28 芝野真喜雄・53 平田佳之*)</p> <p>[生命・環境科学領域] (13 駒野淳・25 宮本勝城・43 土屋孝弘*) (11 藤森功・45 小池敦資*・55 前原都有子*) (18 奥平桂一郎・23 佐久間覚・49 東剛志*) (14 大喜多守) (6 大野行弘・52 清水佐紀*・58 國澤直史*) (12 永井純也・31 本橋秀之) (15 戸塚裕一・35 門田和紀・50 内山博雅*) (20 井尻好雄・33 加藤隆児) (1 松村人志・32 幸田祐佳・48 田中早織*) (16 福森亮雄・37 山口敬子) (19 天満敬・40 平田雅彦・54 近藤直哉*)</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>(概要) 分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域、生命・環境科学領域それぞれの研究室における研究テーマに沿った研究の実践・指導を行うとともに、学位論文の作成指導を行う。</p> <p>[分子構造・機能解析学領域] (24 友尾幸司・21 尹康子) ・タンパク質合成開始因子の構造機能解析 ・タウタンパク質の自己重合機構の解明と阻害低分子の開発 ・放線菌におけるキシロオリゴ糖細胞内輸送機構の解明 ・酵素阻害剤の分子設計</p> <p>(5 福永理己郎・38 藤井忍) ・造血サイトカインによる細胞増殖・分化の分子メカニズムの研究 ・プロテインキナーゼを介した細胞内シグナル伝達機構の研究 ・リン脂質加水分解酵素の酵素機能の分子論 ・血清由来ホスホリパーゼA2阻害タンパク質の構造と機能 ・ロイシンリッチα2グリコプロテインの機能解明</p> <p>(22 坂口実・44 田中智*) ・プロテアーゼによる細胞機能調節に関する研究 ・食品成分による細胞機能調節に関する研究 ・薬物受容体刺激による細胞応答に関する研究</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[創薬化学領域]</p> <p>(4 土井光暢・42 浅野晶子・57 加藤巧馬*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペプチドのコンホーメーションコントロールに関する研究 ・アミロイド線維の形成機構に関する研究 ・機能的ペプチドの構造解析とデザイン <p>(8 宇佐美吉英・46 米山弘樹*・51 葉山登*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん増殖抑制作用を目指した創薬研究 ・核酸化学におけるイミダゾール役割解明のための合成研究 ・新規ヒスタミンH3及びH4アンタゴニストの創製とその応用 ・抗腫瘍性海洋天然物及びその類縁体の合成と生理活性に関する研究 ・クロスカップリング法による複素環化合物への直接的置換基導入法の開発 ・テトラゾールからカルベンの発生機構の合成化学への応用 ・創薬研究で求められる天然に存在しないアミノ酸の効率的な供給を目的とした容易に調達可能な原料基質を直接変換する新たな触媒反応の開発 <p>(9 谷口雅彦・28 芝野真喜雄・53 平田佳之*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種生薬成分の構造解析と生理活性に関する研究 ・サプリメントの有用性に関する研究 ・生薬および漢方製剤の品質評価法に関する研究 ・生薬熱水抽出エキス中の生理活性物質に関する研究 <p>(7 浦田秀仁・27 和田俊一・56 林淳祐*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロドラッグ型新規修飾核酸の合成とRNA干渉などを利用した遺伝子発現制御分子の開発 ・プロドラッグ型siRNAを用いた家族性高コレステロール血症治療薬の開発 ・細胞内移送能を有する細胞膜透過性ペプチドの開発 ・細胞膜透過性ペプチドの核酸医薬細胞内デリバリーツールとしての応用 ・がん細胞を可視化するペプチド性イメージング分子の開発 ・金属イオン架橋型塩基対の形成を介するDNAポリメラーゼの複製反応に関する研究 ・非天然型鏡像体核酸の合成とその高い生体内安定性を利用した細胞情報可視化ナノ分子の開発 <p>(17 平野智也・29 山田剛司・47 菊地崇*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋生物由来真菌の産生する細胞毒性物質に関する研究 ・新しい細胞毒性物質産生菌の探索 ・エリンギに含まれる変型 ergostane型ステロイドに関する研究 ・センダン科植物アンデローバの果実に含まれる新規リモノイドに関する研究 ・タンポポの産生する変型トリテルペノイド <p>* : 研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[生命・環境科学領域]</p> <p>(18 奥平桂一郎・23 佐久間覚・49 東剛志*) ・動脈硬化関連因子の機能と生理的意義に関する研究 ・がん治療を指向した製剤開発に関する研究 ・細胞内タンパク質分解誘導による新規抗がん剤の開発研究 ・核酸による遺伝子発現制御機構に関する研究 ・生活習慣病を誘発する肥満の分子機構に関する研究 ・脳血管内皮細胞のtight junctionの分子機構に関する研究 ・医薬品による環境汚染の動態に関する研究</p> <p>(13 駒野淳・25 宮本勝城・43 土屋孝弘*) ・バイオマスの有効利用を目的とするキチン及びキシラン分解機構に関する分子生物学的研究 ・感染症治療薬の開発を目的とする病原微生物による疾病発症機構に関する分子生物学的研究 ・病原微生物の免疫系に与える影響とその排除機構に関する免疫学的解析</p> <p>(11 藤森功・45 小池教資*・55 前原都有子*) ・脂質メディエーターの機能と制御機構に関する研究 ・肥満制御の分子機構に関する研究 ・細胞増殖制御に関する研究</p> <p>(14 大喜多守) ・エンドセリンの遺伝子発現調節機構 ・慢性腎臓病におけるエンドセリンの病態学的役割 ・急性腎障害における一酸化窒素の病態生理学的役割 ・心臓と腎臓の交感神経活動とその調節機構 ・健康食品の薬理学的研究</p> <p>(6 大野行弘・52 清水佐紀*・58 國澤直史*) ・中枢ドーパミン及びセロトニン神経系の機能解析 ・精神神経疾患(統合失調症、うつ病、パーキンソン病、てんかん等)の病態研究 ・中枢神経作用薬の薬理研究 ・薬物による腎障害の発現機構と防御に関する研究</p> <p>(20 井尻好雄・33 加藤隆児) ・動脈硬化・心不全の発症・進展に関する分子形態メカニズムとストレス応答 ・睡眠時無呼吸症候群に関連する間歇的低酸素負荷と戦略的ラジカルスカベンジャー療法 ・探索的医療の実践と問題点 ・基礎薬学研究として各種病態モデルを作成し、薬物機能・動態解析を行う ・新薬開発時の重篤副作用(横紋筋融解症、薬剤性肝障害、QT延長症候群、急性心筋梗塞、腎不全、敗血症ショックなど)のスクリーニング法の開発 ・重篤副作用や病態の予測・予防・治療法の開発 ・炎症制御と再生に関する研究 ・各種臓器移植片の保護液の開発 ・薬物の承認に必要な前臨床試験 ・探求薬物; Capsaicin・5-ALA・NSAIDs・COX2阻害剤、各種ナノキャリアーなど</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士前期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[生命・環境科学領域]</p> <p>(1 松村人志・32 幸田祐佳・48 田中早織*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳機能を維持するための体内機序、特に睡眠の調節系とその役割に関する研究 ・統合失調症や依存症等の精神疾患とその治療薬に関する臨床研究及び基礎研究 ・耐糖能異常と生活習慣病の発症・進展機序に関する研究 ・生体防御の視点からみた上皮膜機能に関する研究 <p>(16 福森亮雄・37 山口敬子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の病態解明と診断・治療法開発に関する基礎・臨床研究 ・自己免疫性脳炎の病態解明と診断法の開発に関する基礎・臨床研究 ・非天然アミノ酸を用いた受容体のリガンドを探索する基礎研究 ・Crispr/Cas9を用いたノックイン動物の作成とその解析 ・有機試薬の合成とその構造解析並びに分析化学への応用に関する研究 ・病態関連物質の測定法の開発に関する研究 ・生理活性作用を有する金属錯体の創製に関する研究 <p>(19 天満敬・40 平田雅彦・54 近藤直哉*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PET・SPECT画像診断用放射性医薬品の開発に関する研究 ・MRI・光イメージングのための分子プローブ開発に関する研究 ・がんの早期質的診断並びに治療効果判定に関する分子イメージング研究 ・中性子捕捉療法によるがんの治療のための薬剤開発研究 ・病態モデル動物を用いた各種疾患の診断・治療法開発に関する研究 <p>(12 永井純也・31 本橋秀之)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病に伴う薬物トランスポーターの機能・発現変動とその変動要因解析 ・抗癌剤の新規輸送機構の解明とその制御による抗腫瘍効果増強法の開発 ・細胞医薬品の新規開発に向けた生物薬剤学的研究 <p>(15 戸塚裕一・35 門田和紀・50 内山博雅*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難水溶性医薬品の新規可溶性技術に関する研究 ・経肺投与・吸入用の微粒子調製に関する研究 ・メカノケミストリーを用いた機能性粒子調製に関する研究 <p>*：研究指導補助教員</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	分子構造・機能解析学特論 I	<p>(概要) 主に感染症及び重要疾患発症に関与する標的分子の探索、及びその遺伝子発現調節機構などについて考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(4 福永理己郎/2回) 細胞の増殖・分化・死を制御する細胞外シグナルや細胞間相互作用に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。また、分子標的薬としてのプロテインキナーゼ阻害剤に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。</p> <p>(2 井上晴嗣/1回) バイオインフォマティクスの手法を用い、自然免疫に関わる代表的な血液タンパク質について、立体構造と機能発現の分子機構を考察する。</p> <p>(9 友尾幸司/2回) 認知症の発症に関与する生体分子のX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析と機能解析について考察する。また、トランスポータータンパク質のX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析と機能解析について考察する。</p> <p>(36 宮本勝城/2回) 次世代感染症治療薬を分子設計するための標的分子の探索及び解析について考察する。また、バイオマスの有効利用を目的とするキチン分解機構の分子生物学的解析について考察する。</p> <p>(8 尹康子/1回) 生理活性物質や機能性有機分子のX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析について考察する。</p> <p>(34 坂口実/1回) 動物細胞内プロテアーゼの構造及び機能について考察する。</p> <p>(10 箕浦克彦/1回) タンパク質やペプチドのNMRを用いた立体構造解析と決定した構造の評価について考察する。</p>	オムニバス
	分子構造・機能解析学特論 II	<p>(概要) 主に感染症及び重要疾患発症を引き起こす標的分子に対する特異的相互作用物質の探索と相互作用解析、構造活性相関、及び細胞内シグナル伝達機構などについて考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(4 福永理己郎/2回) 細胞の増殖・分化・死を制御する細胞内シグナル伝達の分子機構に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。また、分子標的薬としてのプロテインキナーゼ阻害剤に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。</p> <p>(2 井上晴嗣/1回) バイオインフォマティクスの手法を用い、代表的な動物毒素タンパク質について、立体構造と毒性発現の分子機構を考察する。</p> <p>(9 友尾幸司/2回) 翻訳開始因子の構造と機能及び翻訳開始反応制御機構について考察する。また、疾病発症に関与するタンパク質に対する特異的相互作用物質の探索とSPR法やITC法などの手法を用いた相互作用解析について考察する。</p> <p>(36 宮本勝城/2回) 病原微生物の病原因子の構造と機能について考察する。また、バイオマスの有効利用を目的とするキシラン分解機構の分子生物学的解析について考察する。</p> <p>(8 尹康子/1回) 生理活性ペプチドや修飾ペプチドのX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析について考察する。</p> <p>(34 坂口実/1回) 細胞の増殖と死を制御する仕組みにおけるプロテアーゼの役割について考察する。</p> <p>(10 箕浦克彦/1回) 分光学的手法を用いた生体分子の機能解析について、認知症発症に関与するタンパク質を題材にして考察する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義	分子構造・機能解析学特論Ⅲ	<p>(概要) 主に感染症及び重要疾患治療薬の開発を目的とする標的分子の機能制御物質の分子設計、及びその活性評価などについて考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(4 福永理己郎/2回) 細胞の増殖・分化・死を制御する遺伝子発現調節機構に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。また、分子標的薬としてのプロテインキナーゼ阻害剤に関する一連の最先端研究を理解し、その意義について考察と批判的評価を行う。</p> <p>(2 井上晴嗣/1回) バイオインフォマティクスの手法を用い、代表的な疾患関連タンパク質について、立体構造と病態発現の分子機構を考察する。</p> <p>(9 友尾幸司/2回) 認知症の発症に関与する標的分子と特異的相互作用物質複合体の立体構造解析と、その構造化学的知見に基づいた標的分子の機能制御物質の分子設計を行う。また、トランスポータータンパク質の立体構造解析と、その構造化学的知見に基づいた標的分子の機能制御物質の分子設計法について考察する。</p> <p>(36 宮本勝城/2回) 次世代感染症治療薬候補化合物の分子設計とその活性評価について考察する。また、病原微生物による病原因子と疾病発症機構との相関性について総括的に考察する。</p> <p>(8 尹康子/1回) 生理活性ペプチドや修飾ペプチドのNMR法及びX線結晶構造解析法を用いた立体構造解析と生理活性との相関性について考察する。</p> <p>(34 坂口実/1回) 抗がん薬としてのプロテアーゼ阻害薬の可能性について考察する。</p> <p>(10 箕浦克彦/1回) 生体分子の構造と機能解析より得られる知見に基づいた治療薬の分子設計について、認知症を題材にして考察する。</p>	オムニバス
	創薬化学特論Ⅰ	<p>(概要) 医薬品などの機能性分子あるいは生体関連物質を創製するための理論と実際を最新の研究動向に基づいて解説する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(3 土井光暢/2回) 結晶構造解析法について考察する。</p> <p>(23 浦田秀仁/1回) 核酸のナノマテリアルとしての応用、及びその基礎的理論について考察する。</p> <p>(6 谷口雅彦/1回) 医薬品としての天然医薬品素材について考察する。</p> <p>(32 天満敬/1回) 放射性プローブの開発(放射性医薬品の特性)について考察する。</p> <p>(5 宇佐美吉英/1回) 注目されている生理活性天然物の合成について考察する。</p> <p>(40 山田剛司/1回) NMRスペクトルの解析を中心とした天然物の構造決定について考察する。</p> <p>(38 和田俊一/1回) 最新のペプチド合成法について考察する。</p> <p>(39 芝野真喜雄/1回) 漢方薬などの多成分系医薬品を例にその特徴について考察する。</p> <p>(30 平野智也/1回) 医薬品骨格を形成する構造要素とその機能について考察する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義	創薬化学特論Ⅱ	<p>(概要) 薬品などの機能性分子の機能発現様式の構造化学的基盤を最新の研究動向に基づいて解説する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(3 土井光暢/1回) 構造情報の取扱いについて考察する。 (23 浦田秀仁/1回) 核酸のナノマテリアルとしての応用例の構造化学的基盤を考察する。 (5 宇佐美吉英/1回) 生理活性天然物をリードとした新しい標的化合物の合成について考察する。 (6 谷口雅彦/1回) 天然医薬品素材から開発された医薬品について考察する。 (39 芝野真喜雄/1回) 漢方薬などの多成分系医薬品を例にその特徴について考察する。 (40 山田剛司/1回) 不斉中心を有する天然物の立体化学について考察する。 (38 和田俊一/1回) 種々の機能性ペプチドの構造について考察する。 (32 天満敬/1回) 核医学画像診断の特性について考察する。 (30 平野智也/2回) 医薬品骨格を形成する構造要素とその機能、最新の研究について考察する。</p>	オムニバス
	創薬化学特論Ⅲ	<p>(概要) 医薬品などの機能性分子の創製とその構造化学的基盤について考察する。 (オムニバス方式/全10回)</p> <p>(3 土井光暢/1回) 回折データの測定方法について考察する。 (23 浦田秀仁/1回) 核酸ナノマテリアルの化学修飾戦略を考察する。 (5 宇佐美吉英/1回) 受容体に対する合成標的分子の設計について考察する。 (6 谷口雅彦/1回) 最新の天然医薬品開発研究の動向について考察する。 (39 芝野真喜雄/1回) 様々な活性を示す天然物の活性を擬陽性という観点から考察する。 (40 山田剛司/1回) 最新の天然生理活性物質の絶対構造の解析について考察する。 (38 和田俊一/1回) 機能性ペプチドの構造(最新の機能性ペプチドの発見や設計から生体への応用まで)について考察する。 (32 天満敬/2回) 最新の放射性プローブ開発について考察する。 (30 平野智也/1回) 光を利用した疾患治療、診断の最新の研究について考察する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義	生命・環境科学特論Ⅰ	<p>(概要) 生化学、衛生学、医学、薬理学、製剤学、毒性学などグローバルな視点から、薬学における生命・環境科学分野について理解することを目的とし、最新の話題や研究を紹介する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(7 藤森功/1回) 腸内細菌に注目した肥満の予防と解消法を考察する。 (31 奥平桂一郎/1回) 動脈硬化性疾患(脳卒中、心筋梗塞など)の原因と進行度、および、病態悪化に繋がる危険因子について考察する。 (35 佐久間寛/1回) 環境汚染物質の環境内や体内における分布・循環・代謝変化・に病態生理学的作用について考察する。 (21 松村人志/1回) 生まれながらの素因と、育ちの過程における家庭や社会の環境や情勢等とが、われわれの脳と精神の形成にどのように影響していくのかについて考察する。 (22 大野行弘/1回) 精神疾患(統合失調症、不安障害、うつ病など)の発症と治療について考察する。 (28 戸塚裕一/1回) 機能的食品開発への薬学的アプローチ(食品中有効成分の溶解・吸収)について考察する。 (43 加藤隆児/1回) 重篤副作用とその予測・予防法(薬禍・薬害)について考察する。 (25 永井純也/1回) 薬物の吸収を変動させる要因を説明し、薬物吸収の改善法を考察する。 (32 天満敬/1回) 種々の放射性同位体の薬学的利用法やその利点・問題点について考察する。 (26 駒野淳/1回) 基礎・臨床・社会医学的観点からHIV/AIDSに関する動向を多面的に考察する。</p>	オムニバス
	生命・環境科学特論Ⅱ	<p>(概要) 薬学における生命・環境科学分野について幅広い観点から最新の研究動向の理解を深め、また、諸問題を考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(7 藤森功/1回) 体の構成要素の一つである脂質に注目して、その量的、質的異常によって起こる疾患について考察する。 (31 奥平桂一郎/1回) 脳卒中や心筋梗塞などの動脈硬化性疾患の発症メカニズムと、治療へのアプローチについて考察する。 (35 佐久間寛/1回) 食品汚染物質の環境内や体内における分布・循環・代謝変化・病態生理学的作用について考察する。 (21 松村人志/1回) うつ病、躁うつ病、統合失調症の成因に関して、遺伝要因と環境要因の双方について、過去のさまざまな研究成果に基づいて考察する。 (22 大野行弘/1回) 錐体外路系運動障害(パーキンソン病、本態性振戦など)の発症と治療について考察する。 (28 戸塚裕一/1回) 機能的食品開発への薬学的アプローチ(食品開発における問題点)に関して考察する。 (43 加藤隆児/1回) 重篤副作用の原因を理解し、その予測法と提案について考察する。 (25 永井純也/1回) 薬物の体内分布を支配する要因を説明し、標的指向性を高めるための制御法を考察する。 (32 天満敬/1回) 種々の放射性同位体を用いた生体分析法やその利点・問題点について考察する。 (26 駒野淳/1回) 近年著しい進展を見せる遺伝子細胞治療について事例を紹介し考察する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講 義	生命・環境科学特論Ⅲ	<p>(概要) 生命とそれを取り巻く様々な環境の関係について、幅広い観点から考察する。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(7 藤森功/1回) 睡眠の異常と生活習慣病の発症・進展について、双方向からの影響を踏まえ考察する。</p> <p>(31 奥平桂一郎/1回) 睡眠の異常と生活習慣病の発症・進展について、双方向からの影響を踏まえ考察する。</p> <p>(35 佐久間覚/1回) 食品由来有害化学物質の環境内や体内における生成・分布・循環・代謝変化・病態生理学的作用について考察する。</p> <p>(21 松村人志/1回) サイコパシーを含む反社会性パーソナリティ障害の成因に関して、遺伝及び環境の双方の影響について、さまざまな研究成果を基に考察する。</p> <p>(22 大野行弘/1回) てんかんの発症と治療について考察する。</p> <p>(28 戸塚裕一/1回) 老人を対象とした剤形開発について考察する。</p> <p>(43 加藤隆児/1回) 重篤副作用の予防法の具体的な提案について考察する。</p> <p>(25 永井純也/1回) 薬物動態を精密に制御するための方法とその方法論を踏まえた新規医薬の開発について考察する。</p> <p>(32 天満敬/1回) 各種疾患の診断・治療を目的とした放射性医薬品開発研究の最新動向について考察する。</p> <p>(26 駒野淳/1回) 医療関連感染で問題となる多剤耐性菌について考察する。</p>	オムニバス
	薬学倫理教育特論Ⅱ	<p>(概要) 科学者としての自覚を持つことができるように、科学研究の大切さや科学者に社会が求めていることを知るとともに、適切な研究活動を行い社会にどのように発信していくかを理解することを目的とする。さらに、研究活動を行う上での適切な研究倫理観と生命倫理観を身に付けることを目的とする。(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 大桃善朗/2回) 責任ある研究活動(科学者が社会に求められていること)、研究活動において必要な科学者の心得について指導する。</p> <p>(2 井上晴嗣/1回) 化学・ライフサイエンスにおける研究活動(研究室での活動、実験ノートのつけ方、実験データの保管)について指導する。</p> <p>(24 宮崎誠/1回) 研究の進め方、研究発表の意義や方法について指導する。</p> <p>(37 佐藤卓史*/1回) 人に対する研究における倫理の概要について指導する。</p> <p>(45 長谷井友尋/1回) 社会における研究倫理(研究者と社会の関係、社会における研究者の役割)とその動向について指導する。</p> <p>(1 大桃善朗・2 井上晴嗣・24 宮崎誠・37 佐藤卓史*・45 長谷井友尋/4回) 研究不正の事例から、SDGを実施し、レポートを作成を指導する。</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	オムニバス 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演 習	特別演習 I～III	<p>領域毎に、自身の専門的関連領域の最新文献を分析・総括し、公開形式で発表させることにより、他の研究成果を適切に評価できる能力を身に付けさせることを目的とする。</p> <p>[分子構造・機能解析学領域] (4 福永理己郎・9 友尾幸司・8 尹康子・10 箕浦克彦・34 坂口実・12 藤井忍*・49 田中智*)</p> <p>[創薬化学領域] (3 土井光暢・23 浦田秀仁・6 谷口雅彦・5 宇佐美吉英・30 平野智也・40 山田剛司・38 和田俊一・39 芝野真喜雄・14 浅野晶子*・13 山沖留美*・11 藤嶽美穂代*・16 米山弘樹*・50 菊地崇*・18 平田佳之*・20 加藤巧馬*・56 林淳祐*・17 葉山登*)</p> <p>[生命・環境科学領域] (21 松村人志・22 大野行弘・28 戸塚裕一・25 永井純也・7 藤森功・32 天満敬・26 駒野淳・27 大喜多守・31 奥平桂一郎・29 福森亮雄・33 井尻好雄・35 佐久間覚・36 宮本勝城・42 幸田祐佳・43 加藤隆児・44 門田和紀・41 本橋秀之・46 山口敬子*・47 平田雅彦*・48 土屋孝弘*・52 東剛志*・51 田中早織*・53 内山博雅*・15 小池敦資*・54 清水佐紀*・55 近藤直哉*・19 前原都有子*・57 國澤直史*)</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	
	特別研究演習 I～III	<p>領域毎に、自身の研究における課題や問題点を明確にし、それらを解決する方法論や技術論を公開形式で発表し、討論できる能力を身に付けさせることを目的とする。</p> <p>[分子構造・機能解析学領域] (4 福永理己郎・9 友尾幸司・8 尹康子・10 箕浦克彦・34 坂口実・12 藤井忍*・49 田中智*)</p> <p>[創薬化学領域] (3 土井光暢・23 浦田秀仁・6 谷口雅彦・5 宇佐美吉英・30 平野智也・40 山田剛司・38 和田俊一・39 芝野真喜雄・14 浅野晶子*・13 山沖留美*・11 藤嶽美穂代*・16 米山弘樹*・50 菊地崇*・18 平田佳之*・20 加藤巧馬*・56 林淳祐*・17 葉山登*)</p> <p>[生命・環境科学領域] (21 松村人志・22 大野行弘・28 戸塚裕一・25 永井純也・7 藤森功・32 天満敬・26 駒野淳・27 大喜多守・31 奥平桂一郎・29 福森亮雄・33 井尻好雄・35 佐久間覚・36 宮本勝城・42 幸田祐佳・43 加藤隆児・44 門田和紀・41 本橋秀之・46 山口敬子*・47 平田雅彦*・48 土屋孝弘*・52 東剛志*・51 田中早織*・53 内山博雅*・15 小池敦資*・54 清水佐紀*・55 近藤直哉*・19 前原都有子*・57 國澤直史*)</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>(概要) 分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域、生命・環境科学領域それぞれの研究室における研究テーマに沿った研究の実践・指導を行うとともに、学位論文の作成指導を行う。</p> <p>[分子構造・機能解析学領域] (9 友尾幸司・8 尹康子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質生合成開始因子の構造機能解析 ・タウタンパク質の自己重合機構の解明と阻害低分子の開発 ・放線菌におけるキシロオリゴ糖細胞内輸送機構の解明 ・酵素阻害剤の分子設計 <p>(4 福永理己郎・12 藤井忍*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造血サイトカインによる細胞増殖・分化の分子メカニズムの研究 ・プロテインキナーゼを介した細胞内シグナル伝達機構の研究 ・リン脂質加水分解酵素の酵素機能の分子論 ・血清由来ホスホリパーゼA2阻害タンパク質の構造と機能 ・ロイシンリッチα2グリコプロテインの機能解明 <p>(34 坂口実・49 田中智*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S9セリンプロテアーゼによる細胞機能調整に関する研究 ・食品成分による細胞機能調節に関する研究 ・薬物受容体刺激による細胞応答に関する研究 <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[創薬化学領域]</p> <p>(3 土井光暢・14 浅野晶子*・20 加藤巧馬*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペプチドのコンホーメーションコントロールに関する研究 ・機能的ペプチドの構造解析とデザイン ・膜透過性ペプチドに関する研究 <p>(5 宇佐美吉英・16 米山弘樹*・17 葉山登*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核酸化学におけるイミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究 ・新規ヒスタミンH3及びH4アンタゴニストの創製 ・抗腫瘍性海洋天然物及びその類縁体の合成と生理活性に関する研究 ・クロスカップリング法による複素環化合物への直接的置換基導入法の開発 ・テトラゾールを基盤とする合成反応と生理活性物質の創製研究 ・創薬研究で求められる天然に存在しないアミノ酸の効率的な供給を目的とした容易に調達可能な原料基質を直接変換する新たな触媒反応の開発 <p>(6 谷口雅彦・39 芝野真喜雄・18 平田佳之*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種生薬成分の構造解析と生理活性に関する研究 ・サプリメントの有用性に関する研究 ・生薬および漢方製剤の品質評価法に関する研究 ・生薬熱水抽出エキス中の生理活性物質に関する研究 <p>(23 浦田秀仁・38 和田俊一・56 林淳祐*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロドラッグ型新規修飾核酸の合成とRNA干渉などを利用した遺伝子発現制御分子の開発 ・プロドラッグ型siRNAを用いた家族性高コレステロール血症治療薬の開発 ・細胞内移送能を有する細胞膜透過性ペプチドの開発 ・細胞膜透過性ペプチドの核酸医薬細胞内デリバリーツールとしての応用 ・がん細胞を可視化するペプチド性イメージング分子の開発 ・金属イオン架橋型塩基対の形成を介するDNAポリメラーゼの複製反応に関する研究 ・非天然型鏡像体核酸の合成とその高い生体内安定性を利用した細胞情報可視化ナノ分子の開発 <p>(30 平野智也・40 山田剛司・50 菊地崇*)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋生物由来真菌の産生する細胞毒性物質に関する研究 ・新しい細胞毒性物質産生菌の探索 ・創薬を目的としたテルペノイド類の生理活性及び活性機構に関する研究 ・ブラジル原産植物アンデローバのリモノイドに関する研究 ・ウリ科野菜およびヒラタケ科キノコに関する有機化学的研究 <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[生命・環境科学領域]</p> <p>(31 奥平桂一郎・35 佐久間覚・52 東剛志*) ・動脈硬化関連因子の機能と生理的意義に関する研究 ・がん治療を指向した製剤開発に関する研究 ・細胞内タンパク質分解誘導による新規抗がん剤の開発研究 ・核酸による遺伝子発現制御機構に関する研究 ・酸化ストレスが関与する病態発症機序と制御因子に関する研究 ・脳血管内皮細胞のtight junctionの分子機構と制御因子に関する研究 ・医薬品による環境汚染の動態と除染技術の開発</p> <p>(26 駒野淳・36 宮本勝城・48 土屋孝弘*) ・バイオマスの有効利用を目的とするキチン及びキシラン分解機構に関する分子生物学的研究 ・感染症治療薬の開発を目的とする病原微生物による疾病発症機構に関する分子生物学的研究 ・病原微生物の免疫系に与える影響とその排除機構に関する免疫学的解析</p> <p>(7 藤森功・15 小池敦資*・19 前原都有子*) ・脂質メディエーターとそれらの代謝物の機能と産生調節機構に関する研究 ・脂質メディエーターによる代謝疾患制御の分子機構の解明と調節化合物の開発 ・細胞分化のエピジェネティック制御に関する研究</p> <p>(27 大喜多守) ・エンドセリンの遺伝子発現調節機構 ・慢性腎臓病におけるエンドセリンの病態学的役割 ・急性腎障害における一酸化窒素の病態生理学的役割 ・心臓と腎臓の交感神経活動とその調節機構 ・健康食品の薬理学的研究</p> <p>(22 大野行弘・54 清水佐紀*・57 國澤直史*) ・セロトニン神経系の機能解析および創薬応用研究 ・ニューロン-グリア相互作用の解析研究 ・中枢神経作用薬の薬理研究</p> <p>(33 井尻好雄・43 加藤隆児) ・動脈硬化・心不全の発症・進展に関する分子形態メカニズムとストレス応答 ・睡眠時無呼吸症候群に関連する間歇的低酸素負荷と戦略的ラジカルスカベンジャー療法 ・肺高血圧症における右室リモデリング・毛細血管病変に対する新たな治療戦略 ・薬剤性肝障害等の重篤副作用の予測・予防・治療法に関する研究 ・抗がん薬の体内動態に関する研究</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(大阪医科大学大学院 薬学研究科 薬科学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実 習	特別研究	<p>[生命・環境科学領域]</p> <p>(21 松村人志・42 幸田祐佳・51 田中早織*) ・脳機能を維持するための体内機序、特に睡眠の調節系とその役割に関する研究 ・依存症や嗜癖と呼ばれる病態の解明やそれらの治療薬の開発を目指した研究 ・耐糖能異常と生活習慣病の発症・進展機序に関する研究 ・生体防御の視点からみた上皮膜機能に関する研究</p> <p>(29 福森亮雄・46 山口敬子*) ・認知症の病態解明と診断・治療法開発に関する基礎・臨床研究 ・自己免疫性脳炎の病態解明と診断法の開発に関する基礎・臨床研究 ・非天然アミノ酸を用いた受容体のリガンドを探索する基礎研究 ・Crispr/Cas9を用いたノックイン動物の作成とその解析 ・有機試薬の合成とその構造解析並びに分析化学への応用に関する研究 ・病態関連物質の測定法の開発に関する研究 ・生理活性作用を有する金属錯体の創製に関する研究</p> <p>(32 天満敬・47 平田雅彦*・55 近藤直哉*) ・PET・SPECT画像診断用放射性医薬品の開発に関する研究 ・MRI・光イメージングのための分子プローブ開発に関する研究 ・がんの早期質的診断並びに治療効果判定に関する分子イメージング研究 ・中性子捕捉療法によるがんの治療のための薬剤開発研究 ・病態モデル動物を用いた各種疾患の診断・治療法開発に関する研究</p> <p>(25 永井純也・41 本橋秀之) ・疾患時における組織環境変化に伴う薬物動態変動とその分子機構の解明に関する研究 ・薬物動態の精密制御による医薬品の有効性と安全性の向上と新規投与方法に関する研究 ・脂肪幹細胞が有する組織細胞保護作用の要因解明と細胞医薬品への応用</p> <p>(28 戸塚裕一・44 門田和紀・53 内山博雅*) ・難水溶性医薬品の新規可溶化技術に関する研究 ・経肺投与・吸入用の微粒子調製に関する研究 ・自己乳化型製剤調製に関する研究</p> <p>*：研究指導補助教員</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人大阪医科薬科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

今回の設置認可申請は、本法人が設置する2大学（大阪医科大学・大阪薬科大学）の統合を目的としたものです。手続き上、大阪医科大学に薬学部/大学院薬学研究科を設置（複数年次開設）し、大阪薬科大学の在学生全員を統合時（令和3年4月1日）に転学させ、大阪薬科大学を廃止することとなります。なお、下表のとおり、統合前後で薬学部/大学院薬学研究科の教育研究組織や学生数に変更はなく、教員組織、校地、校舎、施設、設備、学生支援体制等も同一性を保持します。

※別途、統合時（令和3年4月1日）に大学名称を「大阪医科薬科大学」へ変更する予定です。

令和2年度

大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員
大阪医科大学			
医学部			
医学科	112	-	672
看護学部			
看護学科	85	-	340
計	197		1012
大阪医科大学大学院			
医学研究科			
医学専攻(4年制D)	50	-	200
医科学専攻(M)	4	-	8
看護学研究科			
看護学専攻(M)	8	-	16
看護学専攻(D)	3	-	9
計	69		249
大阪薬科大学			
薬学部			
薬学科(6年制)	294	-	1764
薬科学科(募集停止中)	-	-	-
計	294	-	1764
大阪薬科大学大学院			
薬学研究科			
薬学専攻(4年制D)	3	-	12
薬科学専攻(M)	5	-	10
薬科学専攻(D)	2	-	6
計	10	-	28

令和3年度

大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
大阪医科大学				
医学部				
医学科	112	-	672	
看護学部				
看護学科	85	-	340	
薬学部				令和3年4月 学部の設置（認可申請）
薬学科(6年制)	294	-	1764	第1・2・3・4・5・6年次開設 (複数年次)
薬科学科(募集停止)	(-)	-	(2)*	
計	491		2776	*大阪薬科大学から転学する平成29年度以前の入学生のうち、4年次の学科配属において薬科学科を選択した者に対する収容定員として4年次：2名を設定する。 *開設時期(令和3年4月)からの入学生及び大阪薬科大学から転学する平成30年度以降の入学生は、薬科学科に配属しない。
大阪医科大学大学院				
医学研究科				
医学専攻(4年制D)	50	-	200	
医科学専攻(M)	4	-	8	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	8	-	16	
看護学専攻(D)	3	-	9	
薬学研究科				令和3年4月 研究科の設置（認可申請）
薬学専攻(4年制D)	3	-	12	4年制D:第1・2・3・4年次開設
薬科学専攻(M)	5	-	10	M:第1・2年次開設
薬科学専攻(D)	2	-	6	D:第1・2・3年次開設 (複数年次)
計	79		277	
大阪薬科大学	0	-	0	令和3年4月学生募集停止 令和3年4月廃止
計	0	-	0	
大阪薬科大学大学院	0	-	0	令和3年4月学生募集停止 令和3年4月廃止
計	0	-	0	